◉モノグラフ

小学生ナウ

Vol. 8 -12

3年生白書

目次

要　約 …… 2

はじめに …… 6

1. 生活リズム …… 7

- 起床・登校・就寝 …… 7
- 登校までにしていること …… 10

2. 学校生活をめぐって …… 15

- 学校に対する感情 …… 15
- 学校での仲間遊び …… 20

3. 学校外学習をめぐって …… 24

- 家庭での勉強 …… 24
- 学習塾とおけいこごと …… 27

4. 放課後の交友関係 …… 32

- 友だちの家との距離 …… 32
- 友だち遊びの頻度 …… 33

5. 家庭生活をめぐって …… 36

- 親子関係 …… 36
- 母子間の心理的距離 …… 38
- 手伝いをめぐって …… 41

地球社会の子どもたち ⑪
タイペイ―その1　補習班 …… 深谷昌志 …… 46

資料1　調査票見本 …… 52

資料2　基礎集計表 …… 60

※おことわり：本文中に使用した写真は、本文・テーマとはいっさい関係ありません。

調査レポート
3年生白書
要約

東京学芸大学教授　深谷和子
東京学芸大学大学院生　横山聡子

1．調査の意図

3年生の意識と行動をめぐる諸資料を入手する。ただし母親対象の「新入生白書」「2年生白書」と異なって、特別に平易に作られた調査票を用いたアンケート調査の結果である。対象は小学3年生1,401名であった。

2．登校までにすること

朝起きて歯をみがかずに登校することのある子は男子22%、女子14%（図9）、排便しないで登校する子は男子53%、女子71%（図13）、手伝い（掃除）をして登校する子は男子4%、女子6%。（図17）

3．朝食を食べない子

ときどきにせよ、朝食を食べないで登校することのある子は2割を超える。（図6）

4．登校するときの気持ち

「とても楽しい」子が36%、「わりと楽しい」子が40%。(図18)

5．担任を好きか

担任を「とても好き」な子が43%、「わりと好き」な子が34%。男子より女子のほうが、担任に愛着をもっている。(図20)

6．好きな教科

好きな順は「体育、図工、音楽、理科、算数、国語、社会」。性差は多少あるもののいわゆる主要4教科より技能教科が好まれている。(図23)

7．仲よしの友だち

バラツキが大きい。女子より男子のほうが「仲よし」の友だちを多く持っている。ちなみに10人以上と答えた子は、男子で39%、女子は19%。(図31)

8．朝の遊び時間

登校してチャイムが鳴るまでの時間は、10分以内が35%、11～20分が48%。(図35)

要　約

9．宿 題

必ず忘れずにやってくる子は男子31％、女子50％（図38)、親に「宿題は？」と聞かれなくてもいつも自分から忘れずにやる子は、男子36％、女子49％。(図39)

10．宿題以外に家でする勉強

宿題しかしない子は、男子30％、女子24％（図40)、言われなくても宿題以外の勉強までいつもする子は、男子21％、女子23％。(図41)

11．通塾率

男子37％、女子32％（図44)、通塾を開始したのは３年生になって41％、２年生から28％、１年生から17％、それ以前15％。(図46)

12．おけいこごと

おけいこごとに行っている子は８割（図47)。音楽、習字、水泳が上位３つ（図48）だが、すでに英語を習っている子も４人に１人。

●調査概要

1.調査主題　３年生白書

2.調査視点　小学校に入学して３年目ともなると、１、２年生の頃と生活のリズムも変わってくる。本号では、特別に平易な文章で子どもたち自身へのアンケートを通して、小学３年生の姿を探ってみた。

3.調査項目　起床（就寝）時間、好きな教科、友だちについて、母子関係、手伝い、学習

13. 家で友だちと遊ぶ子

家へ帰ってからも毎日のように友だちと遊ぶ子は29%もいる。(図50)

14. 両親を好きか

父親をとても好きな子は69%(図56)、母親をとても好きな子は72%。(図57)

15. 帰ったとき母親に家にいてほしいか

「ぜったいいてほしい」子は男子26%、女子で44%。(図62)

16. 手伝い

毎日決まった手伝いをする子は少ない(図65)。食卓のセット(皿や箸を並べる)を毎日手伝う子は男子19%、女子28%(図67)、ゴミ捨ては男子20%、女子17%(図69)、掃除機をかけるは男子4%、女子6%。(図73)

塾、おけいこごと、親子関係、担任の先生について。

4.調査時期　1988年2月～3月

5.調査対象　東京都内の小学3年生

6.調査方法　学校通しによる質問紙調査

7.サンプル数　男子712名、女子689名、合計1,401名

はじめに

3年生とはどんな時期なのか。本レポートは既刊の新入生白書（vol. 7－11）・2年生白書（vol. 7－4）に次ぐ3年生の意識と生活をめぐる実態調査である。ただし既刊の2冊は母親の目を通して資料収集が行われたが、この「3年生白書」は直接子ども対象の調査を行った結果である。3年生はアンケート調査が多少とも可能なギリギリの年齢と思われ、通常は4年生以上にしか調査を実施してこなかったが、ここでは試みにやさしい文章や内容の項目を工夫して、子どもから直接データを集めてみた。3年生とは子どもの成長過程の中でどんな姿をした学年なのだろうか。そして、低学年の子どもへのアンケート調査はどこまで可能かを探る意味も持たせてある。

1.生活リズム

学校生活にも慣れ、社会性も育ち始めて仲間遊びが活発化し始めるこの時期の子どもたちは、逆に生活がだらしなくなってそのリズムも乱れ始める時期とも言われている。「3年生白書」のスタートは、まずその生活リズムを探ることから始めよう。

起床・登校・就寝

図1が示すように63%の子どもが朝は7時前後に起き、図3が示すように9時半頃に寝る。起床時刻にはそう開きがないが、就寝時刻は8時半前後の子も9%、10時半以降の子も15%と幅が大きい。vol.7－4「2年生白書」の数字と比べると、全体が夜ふかし型へ移行しているのがわかる。また図2は毎朝1人で起きられるか、をたずねたもので、半数くらいがこの点に関してほぼ自立していることがわかる。

さて起床から就寝までの間にもう一つ、登校のため家を出る時刻は大きな区切りであろう。図4によると8時から8時10分の間に家を出る子が52%。そして図5によると、言われなくても遅刻しない時間に完全に家を出ることのできる子は約6割、「たいていそう」を合わせると8割。ただし言われないと登校一つ主体的にできない子も1割と、この点での自立性には大きな開きが見られる。

図1　起床時間

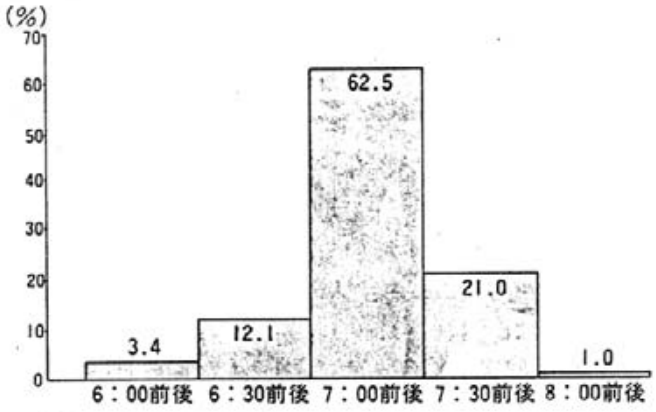


図2　毎朝1人で起きるか

(%)

	いつもそう	たいていそう	ときどきそう	ごくたまにそう	ほとんどない
全　体	28.9	20.4	24.0	9.1	17.6
男　子	30.8	20.1	22.6	8.3	18.2
女　子	27.0	20.8	25.3	10.0	16.9

図3　就寝時間

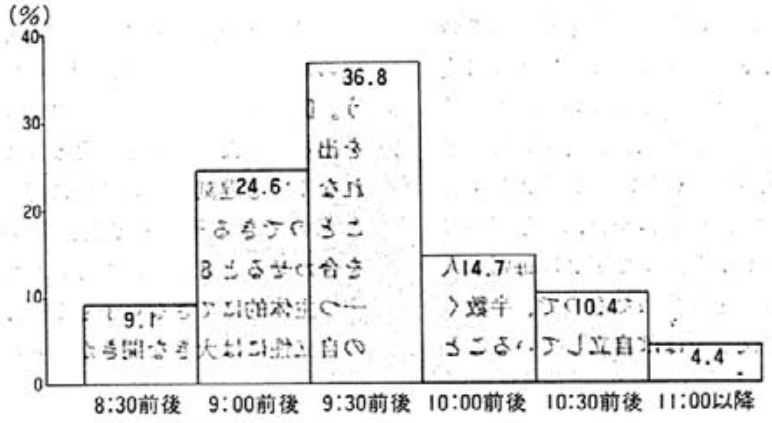


図4　学校へ行く時間

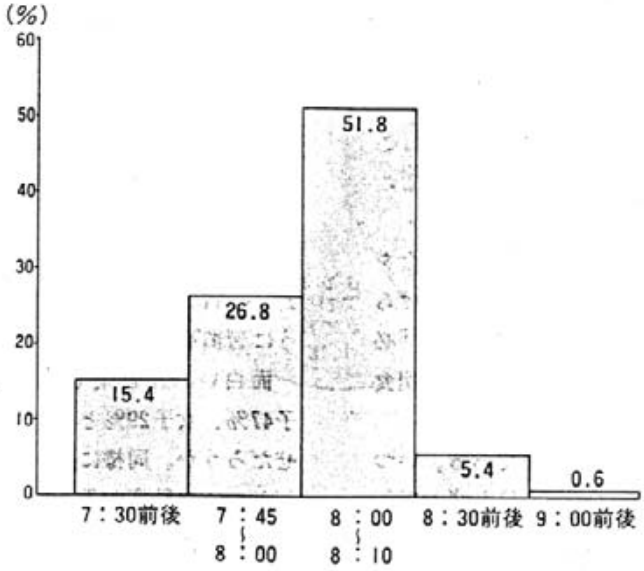
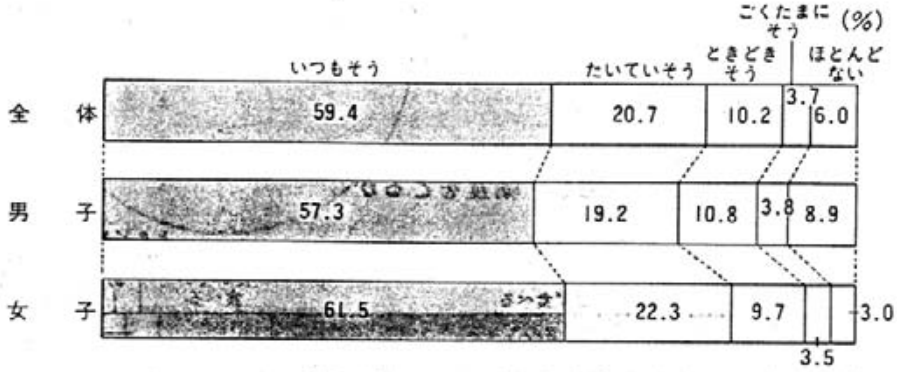


図5　毎朝、遅刻しない時間に家を出るか



登校までにしていること

起床から家を出るまでほぼ1時間と、あわただしい朝を過ごす子どもたちだが、ではこの時間内に子どもたちは一体何をしているのだろう。

図6、図7は朝食についてである。朝食をとらずに登校する子どもの問題が取り上げられるようになって久しいが、図6を見ても「必ず食べる」子は78%。2割は時折にせよ、朝食をとらない朝があることを示している。

図7は、朝食を誰と食べるかである。いつも「家族全員で食べる」子どもはわずか30%で、「1人で食べる」と回答している子どもも12%ほど。相変わらず問題の所在を感じさせられる。

次に図8から図17は、朝のあわただしい時間に子どもが何をしているか、いわばその生活習慣を探って見たものだ。

図8によれば、自分の使ったふとんをたたむ（ベッドを直す）子は女子の77%に対して男子の19%と大きな差がある。男子の親はなぜこんな状態を許容するのだろう。以下、歯みがき（図9）、洗顔（図10）、整髪（図12）といずれも女子のほうがよくやっている。加えて図11、図15に見られるように、女子のほうに習慣形成が進んでいるものと見られる。

面白いのは排便で（図13）、これだけは男子47%、女子29%と男子の数字が高いのはなぜだろうか。同様に図14は時間割をそろえるだが、この数字が男子に高いのは、逆に夜のうちにやっておかないという、男子のルーズさを示すものかもしれない。

なお図16は朝に勉強する子で、これは男女共に5%とわずかである。図17は掃除だが、やはり僅少で、昔の子どもたちが朝玄関の掃除や庭はきを日常化させていたのを思い出すと、時代の変化を感じさせられる。

図6　朝食をとるか

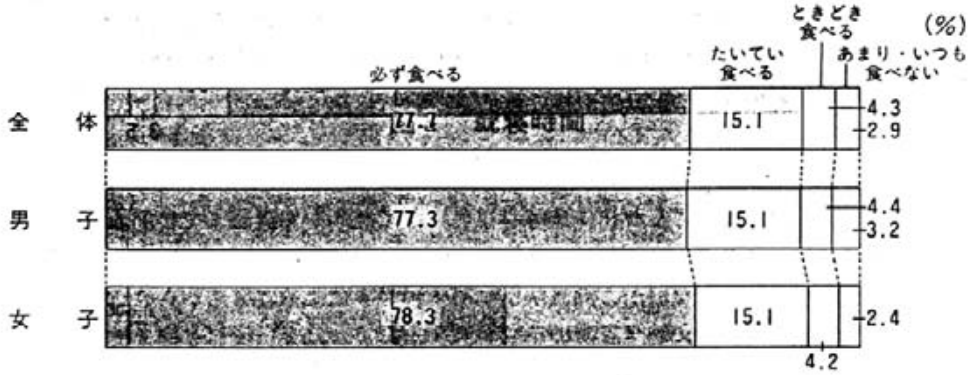


図7　朝食を誰と食べるか

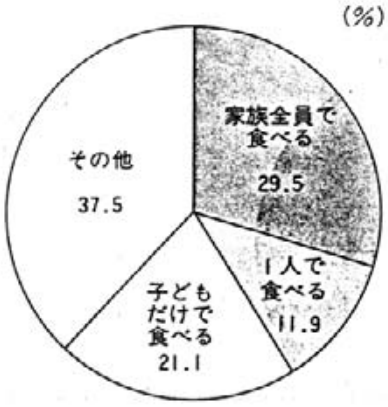


図8　ふとんをたたむ

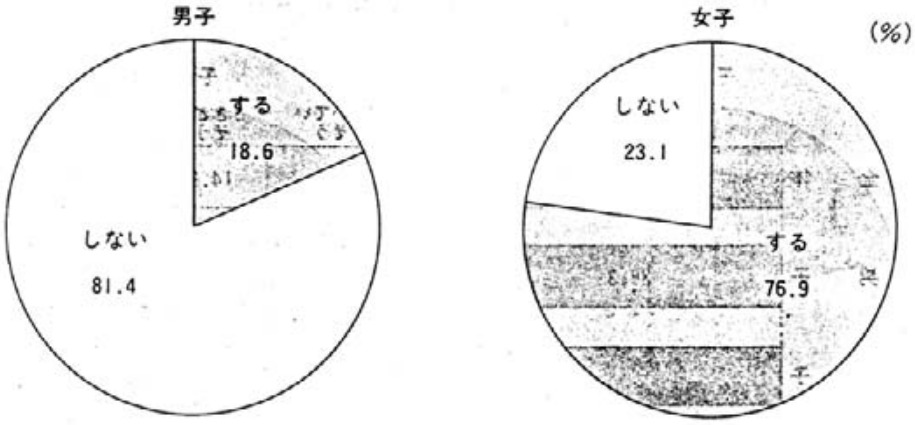


図9　歯みがき

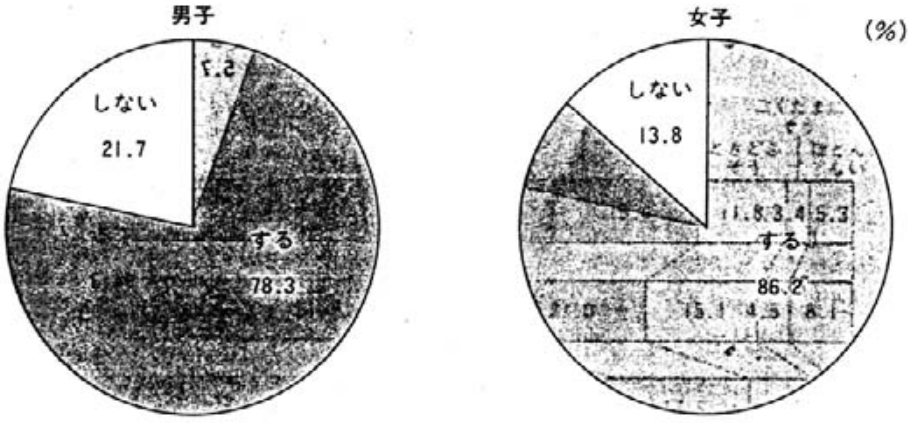


図10　洗顔する

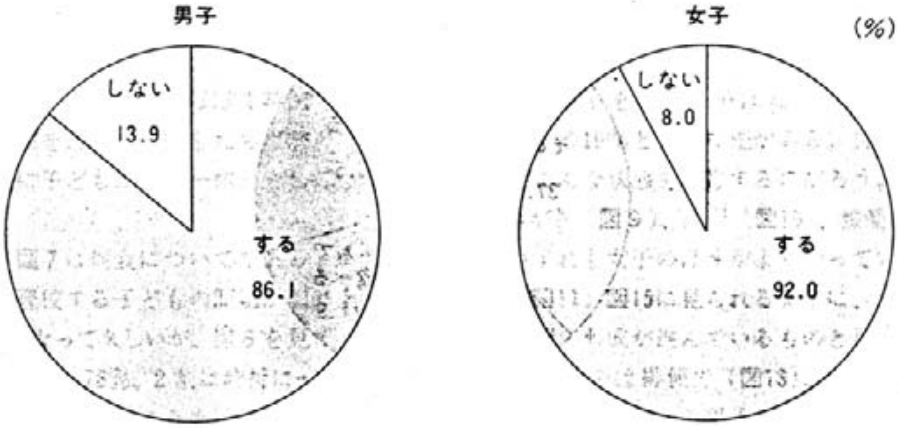


図11　言われなくても洗顔するか

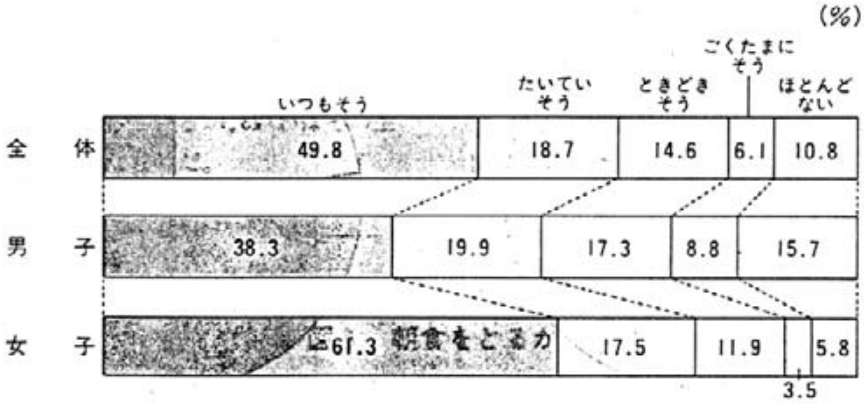


図12　髪をとかす

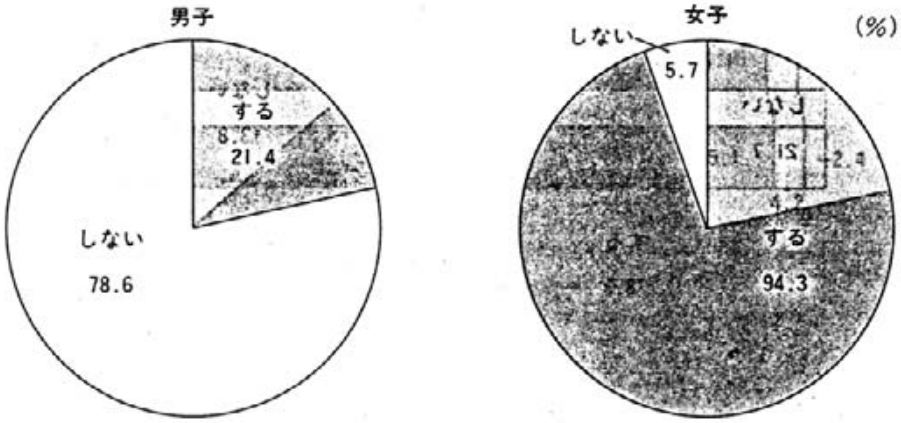


図13　排便する

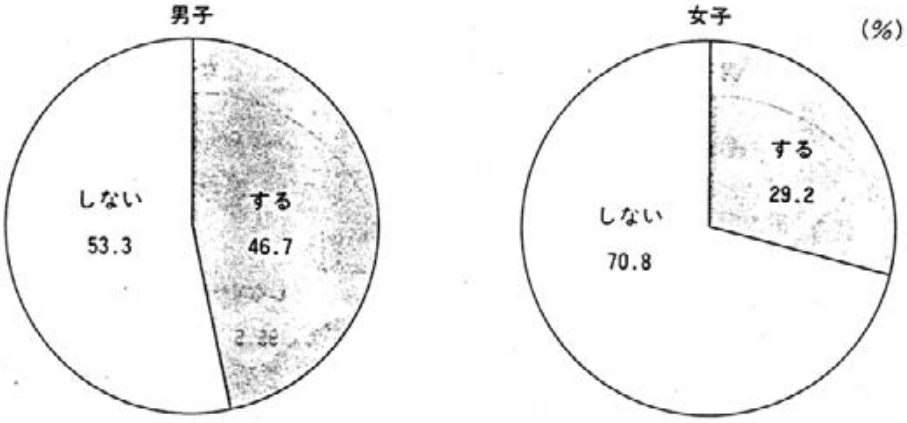


図14　時間割をそろえる

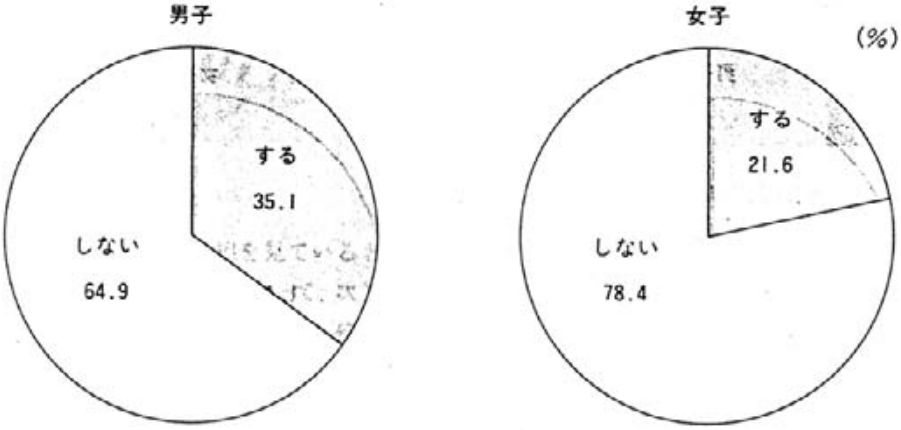


図15　言われなくても時間割や持ち物をそろえるか

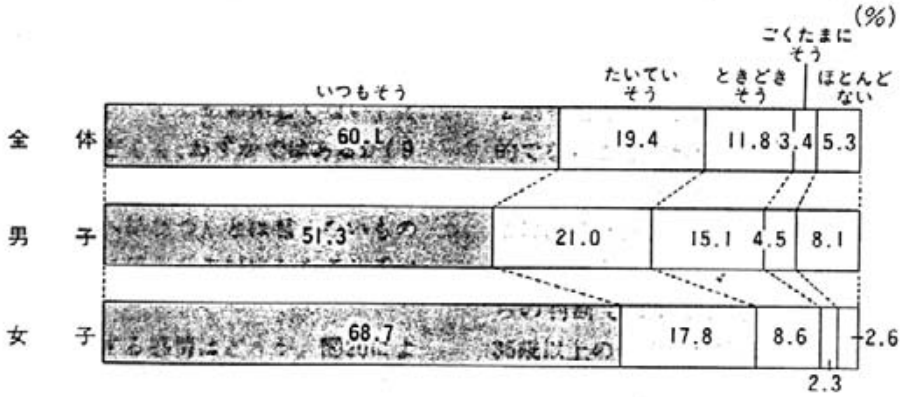


図16　勉強をする

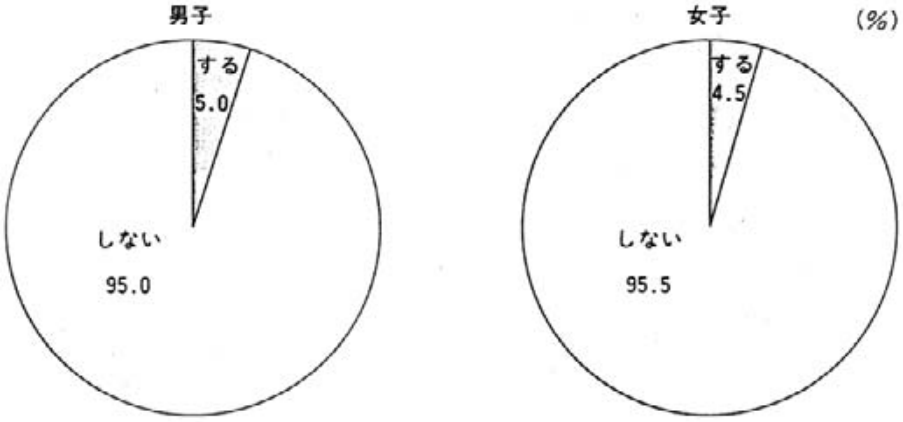


図17　掃除をする

2. 学校生活をめぐって

最近の登校拒否増加の様相を見ていると、学校生活が多くの子どもたちにとって、次第にきびしいものになってきていることが推測される。ここでは学校生活に対する子どもの感じ方を見てみることにしよう。

学校に対する感情

まず図18は、学校へ行くときの気持ちをたずねたものである。「とても・わりと楽しい」と回答している子どもが76%と大半を占めているが、「あまり・ぜんぜん楽しくない」と回答している子どもも、わずかではあるが(9%)いる。このような気持ちが即学校へ行かないなどの行動へ結びつくとは言えないものの、見過ごさずに何らかの対応がなされるべきであろう。

次に担任に対する感情はどうか。図20によれば、担任を「とても・わりと好き」な子は77%。「少し好き」は「少ししか好きでない」わけだからむしろ否定的な感情とみなせば「あまり好きでない・嫌い」の9%と合わせて、2割を超える子が担任に対して必ずしも好意的でないことがわかる。その数字は女子の17%に対して男子が29%と、なぜか男子に高い。この数字を少しでも少なくするための努力が望まれよう。しかも図22によれば(子どもたちの判断ではあるが)、子どもたちの担任は35歳以上のベテラン教師が8割を超えている。もっとも、全体として高年齢(子どもたちか

ら見て）であることが、逆に担任に好意を持てない子を生み出している、という解釈もできないではないだろうが。

次に図23から図30は教科に対する好き嫌いを見たものである。まず図23が示すように、「とても好き」の数字に注目すれば、いわゆる主要4教科よりも、技能教科（体育、図工、音楽）が好まれている。「とても・わりと好き」な子は、体育の82%、図工77%、音楽64%、理科67%、算数66%となっており、国語と社会に対しては「ふつう」と何か気のない反応をする子が多い。しかしそれでも3年生では何の教科についてでも「嫌い」と言い切る子はまだわずかである。

図24以下は各教科別に性差を見たものである。国語、音楽は女子に好まれ、他は男子のほうに好きとする割合が高い。最大の性差は音楽である。青年期に入ると男子にも音楽ファンが多くなるのに、この数字はなぜだろう。

図18　学校へ行くときの気持ち

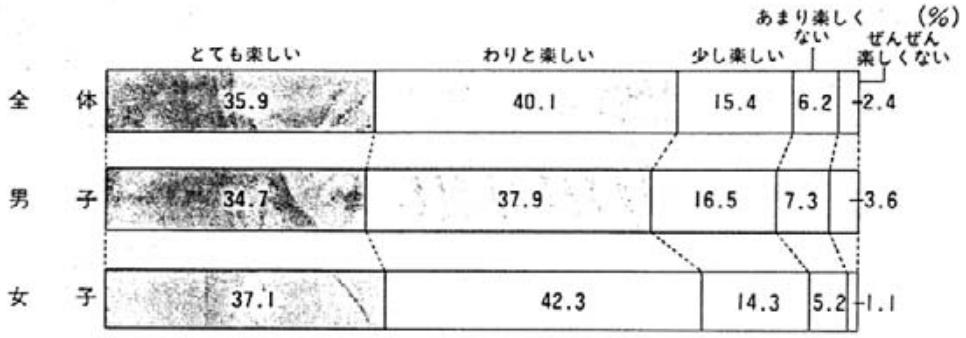


図19　担任の性別

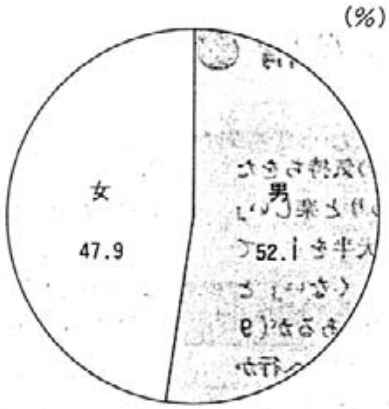


図20　担任を好きか

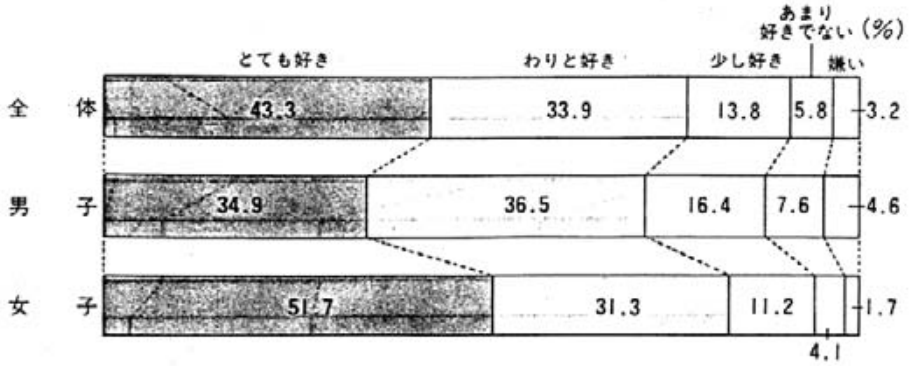


図21　担任の年齢

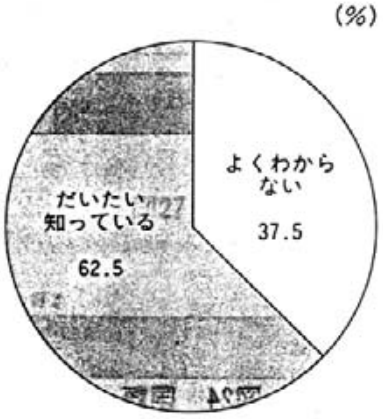


図22　担任の年齢

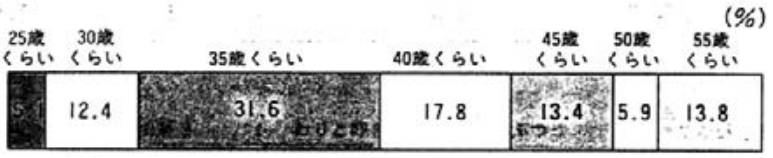


図23　好きな教科

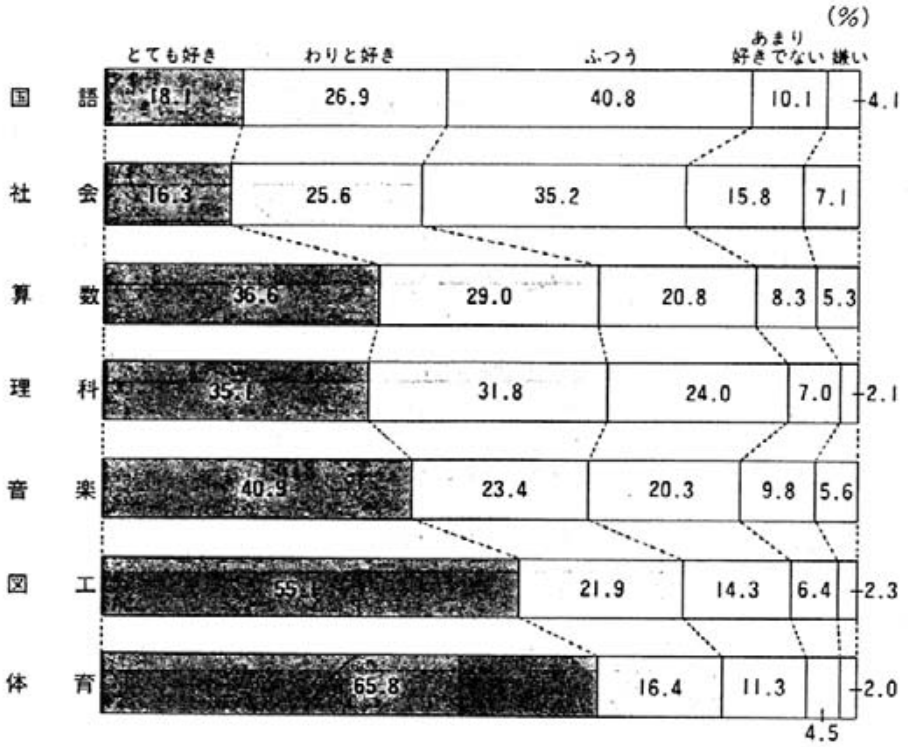


図24　国語

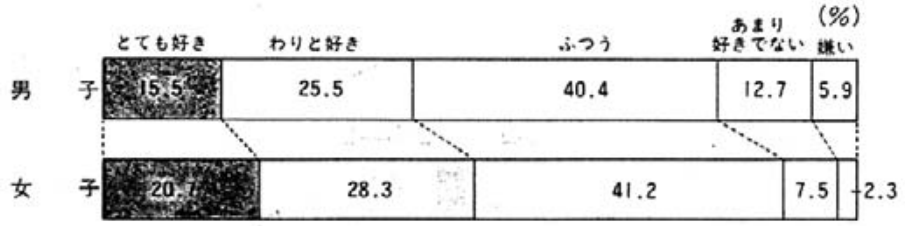


図25　社会

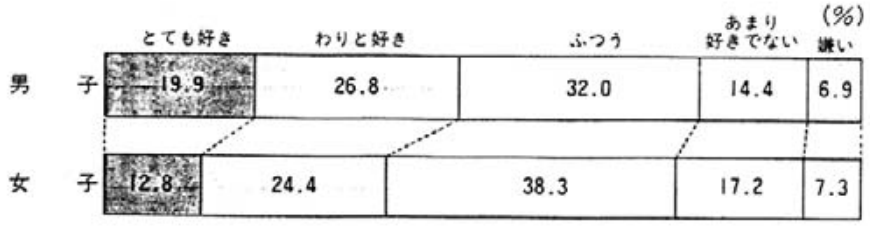


図26　算数

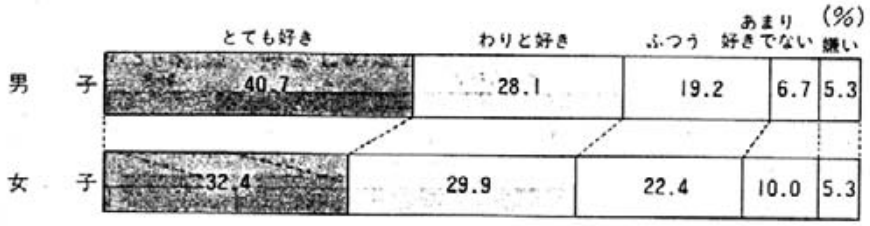


図27　理科

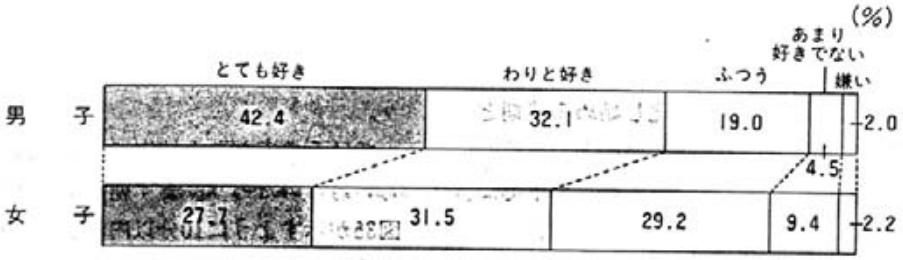


図28　音楽

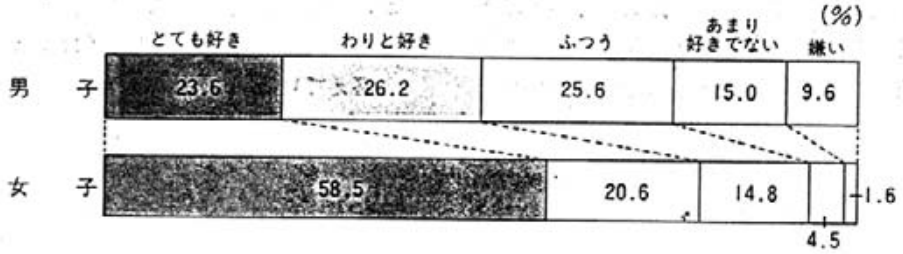


図29　図工

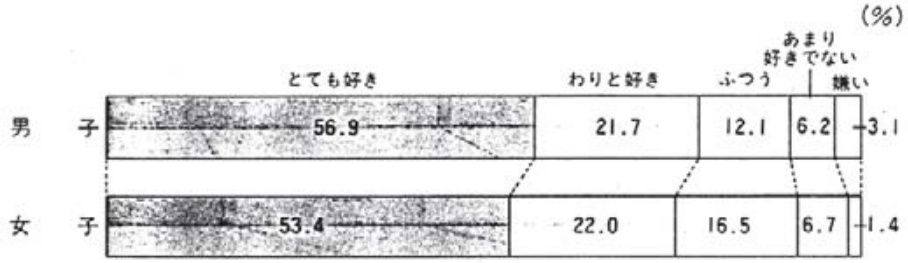
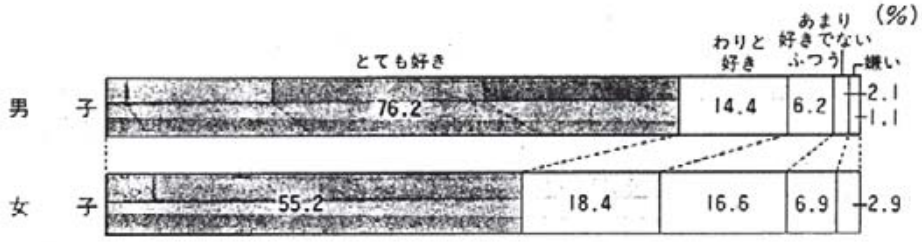


図30　体育



学校での仲間遊び

3年生は集団遊びが活発化し始める時期とされる。とくに最近のように友だちとの接触や遊びがほとんど学校で行われる状況の下では、この点についてのデータが大切だろう。

まず仲よしの友だちの人数を図31に示した。男子のほうが仲よしの友だちの人数が多く、女子は少人数でまとまる傾向を見せている。ではその仲よしの友だちとはどんな子か。男女共に同じ学年が8割（図32）、同じクラスが6割（図33）、同性が8割（図34）という結果である。これはクラス替えの結果、前の仲よしがそのまま続いているものとみてよいだろう。

ではその友だちと校内で遊ぶ時間はどのくらいあるのだろう。まず朝授業が始まる前は、図35が示すように10分以内が35%、11分から20分が48%と、合わせると20分以内が8割を超えてしまう。しかも図36が示すように、教室内で遊ぶ子が男子の3分の1、女子の半分もいる。これでは到底十分には遊べないだろう。また図37は昼休みの遊び場である。さすがに朝よりは校庭で遊ぶ子の割合がふえているものの、それでも2割の子はやはり教室内と答えている。

図31　仲よしの友だちの人数

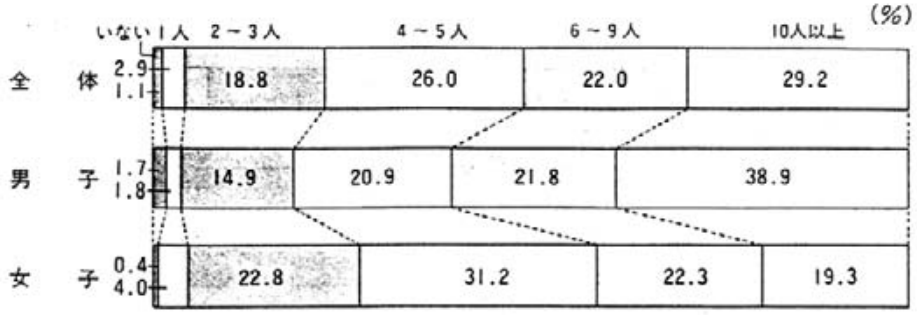


図32　仲よしの友だちはどんな子か(学年)

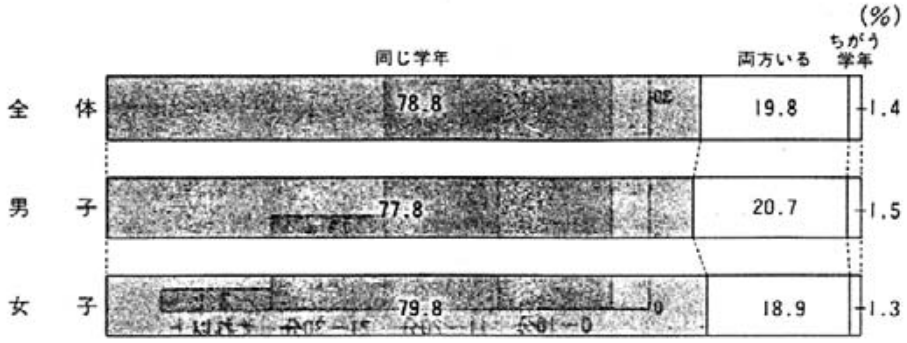


図33　仲よしの友だちはどんな子か(クラス)

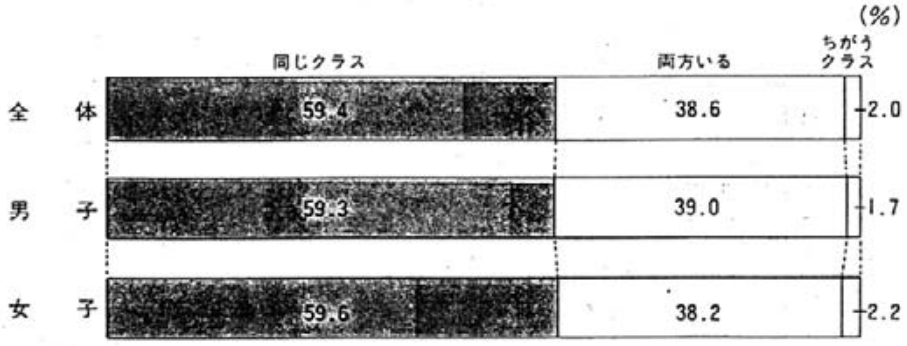


図34　仲よしの友だちはどんな子か(男女)

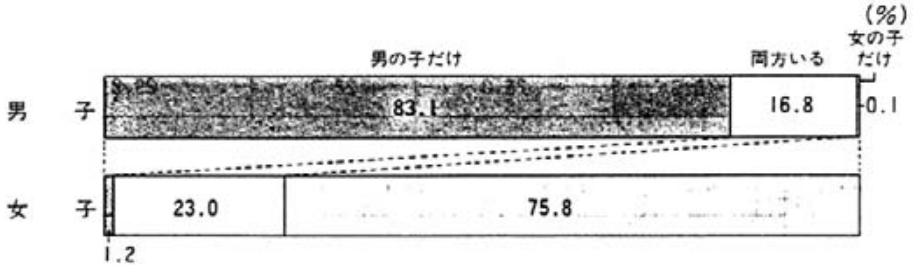


図35　登校後チャイムが鳴るまで

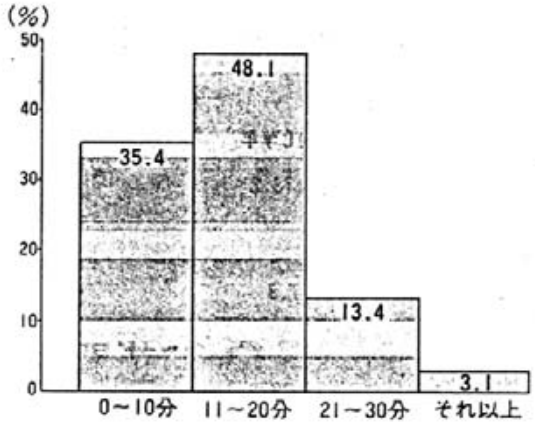


図36　朝の遊び場

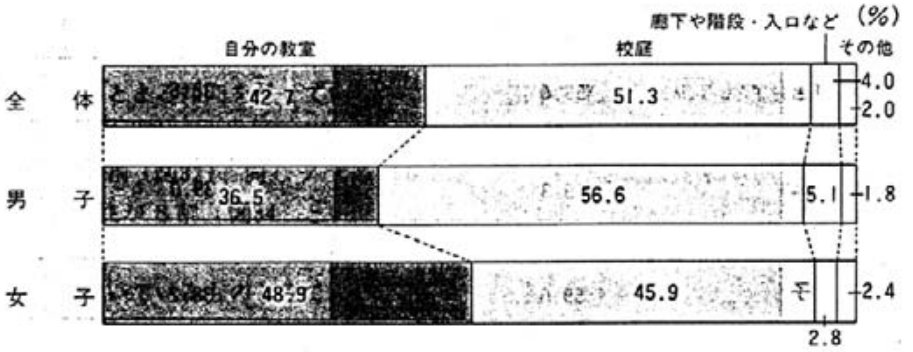
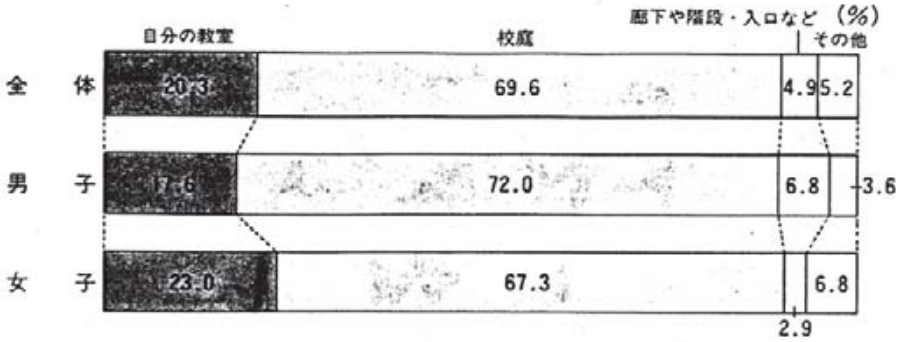


図37　昼休みの遊び場


廊下や階段・入口など
(%)
自分の教室
校庭
その他
全　体
20.3
69.6
4.9
5.2
男　子
17.6
72.0
6.8
3.6
女　子
23.0
67.3
6.8
2.9

3. 学校外学習をめぐって

3年生は、本来ギャング・エイジと言われる遊び盛りの時期にさしかかっている。しかし最近の子どもたちは、塾におけいこごとに家庭学習にと帰宅してからも極めて多忙だ。では一体3年生は、どの程度の時間を塾をも含めた学習に費しているのだろうか。

家庭での勉強

家庭学習の中心は宿題だろう。図38は「宿題を忘れずにするか」についてだが、「いつも忘れずにする」子は4割。「たまに忘れる」子も同じく4割ほどいて、この点に関してはまだ指導上気のぬけない学年でもあるようだ。男子と女子では女子のほうがきちょうめんらしい。次に図39は「親に言われなくても、自分から宿題をするか」だが、これも「いつも」やるは4割、「たいてい」やるが3割。「言われないと自分からはしない」自立的でない子も1割はいて、そのバラツキは大きい。そしてここでも女子のほうがよくやっている。

では宿題以外の勉強はどうなっているのだろう。図40に宿題以外の勉強時間を男女別に示した。「宿題以外はしない」と答えている子は男子30%、女子24%で、それ以外の子どもたちは多少の差はあれ、宿題以外にも勉強している。「15分～30分くらいする」子どもが全体の4割ほどでもっとも多いが、1時間かそれ以上する子も2割いて、ここでもバラツキが大きい。

図41は宿題以外の勉強の自発性である。親

に言われなくても「いつも・たいてい」やるいわばやる気のある子は4割で、この点に関してはまだ親の配慮が必要な年齢なのだろう。同じく図42は机の上の整頓の状態だ。図41と同様、ここでもまだ身のまわりのことをうまく処理しかねている3年生の姿が見られる。また参考までに、図43にテレビ視聴時間を掲げた。勉強時間に比べると、ずい分長くなっている。

図38　宿題を忘れずにするか

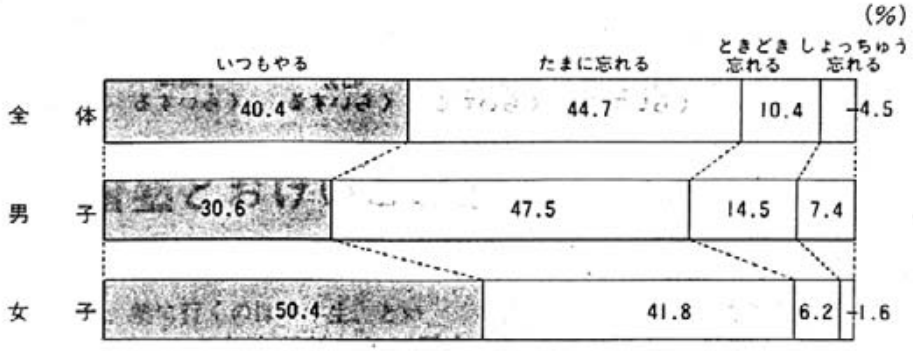


図39　言われなくても宿題をするか

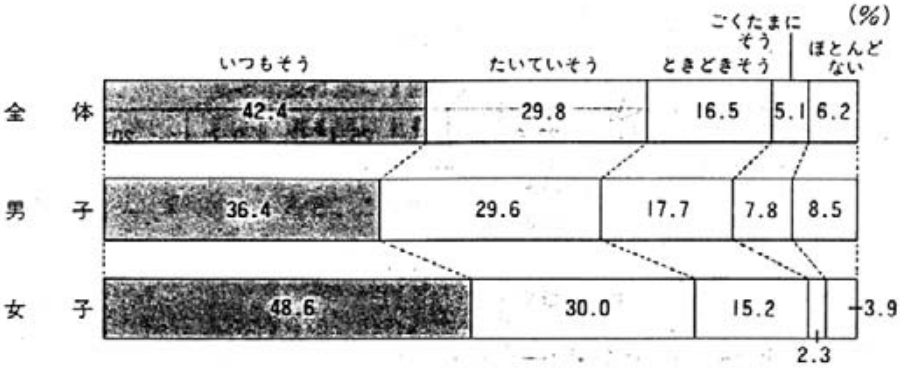


図40　宿題以外の勉強時間

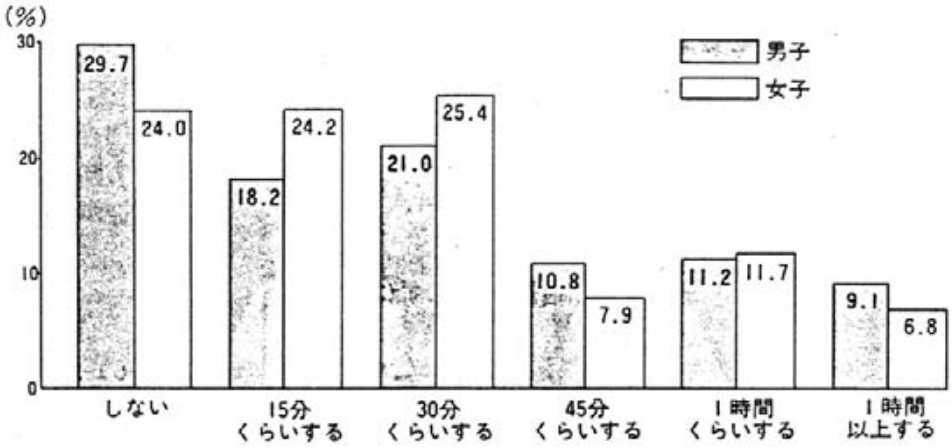


図41　言われなくても宿題以外の勉強をするか

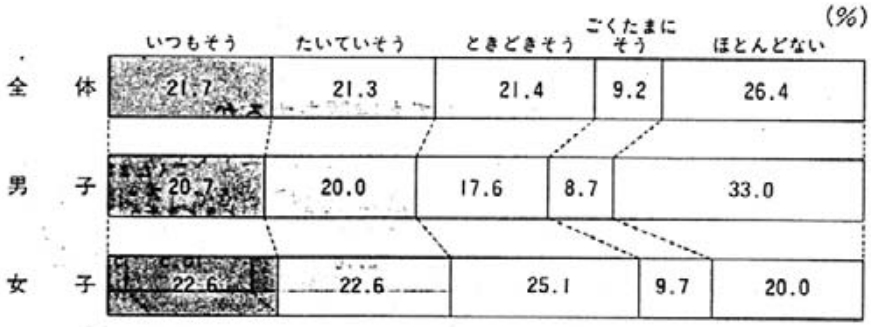


図42　自分の机の上は自分できれいにしているか

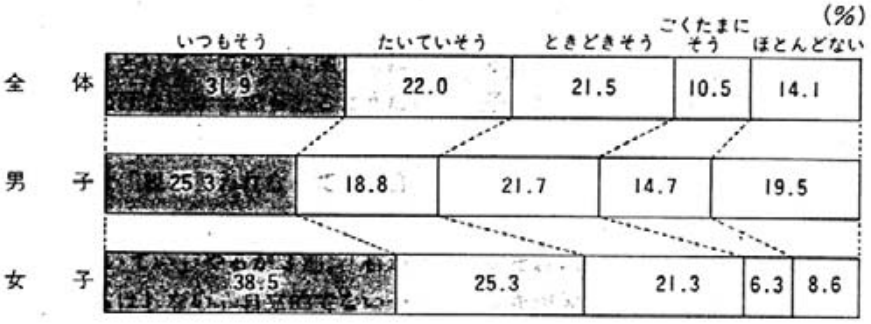
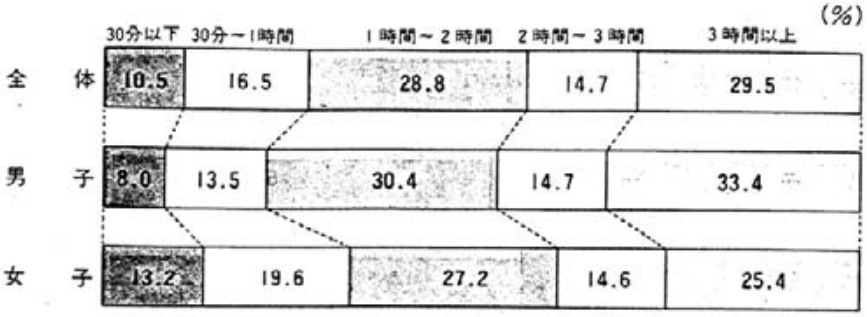


図43　テレビ視聴時間



学習塾とおけいこごと

少し前までは、塾に行くのは中学生、というイメージだった。しかし、今では小学生の通塾がめずらしいことではなくなった。では3年生は、どの程度塾へ行っているのだろう。

図44によると、学習塾に行っているのは全体の35%、昭和61年暮れに調査した「2年生白書」の通塾率は17%であり、たった1年、学年が上がっただけで数字が大きく増加している。また図45によれば、通塾回数は週に2回がもっとも多く、47%。他方、週4回以上も塾に通っている子どもも20%近く出てきており、「2年生白書」の5%と比べると、これまた大きな増加を示す。

ところで、塾に通うようになったのはいつ頃からか、図46に通塾開始時期をまとめた。およそ40%が3年生からと答えているが、残りの60%の子どもは2年生以前からで、「小学校に入る前から」という子どもも15%を占めている。先に引用した「2年生白書」の数字だが、2年生から3年生にかけての数字の増加は、単に学年差ばかりでなく、今回の調査時期との間の約1年半の間に全体として通塾開始が早期化したことをも含んでいるのかもしれない。

次に図47、図48(1)～(8)は、おけいこごとについてである。図47が示すように男子の75%、女子の89%が何らかのおけいこごとをしている。その内容は図48に示したが、その順位は

	男　子	女　子
1位	水　泳(59%)	ピアノなど(81%)
2位	習　字(53%)	習　字(53%)
3位	ピアノなど(41%)	水　泳(50%)
4位	剣道　など(35%)	そろばん(27%)
5位	そろばん(28%)	英　語(23%)
6位	英　語(25%)	バレエなど(13%)
7位	体　操(21%)	体　操(10%)
8位	バレエなど(1%)	剣道　など(7%)

となっている。この中で回数が多いのはそろばんで、他のおけいこごとが週1回であることが多いのに、これは週3～4回となっている。また英語は中学から教科として始まるのに、3年生ですでに4分の1が学んでいることにも驚かされる。

図44　学習塾に行っているか

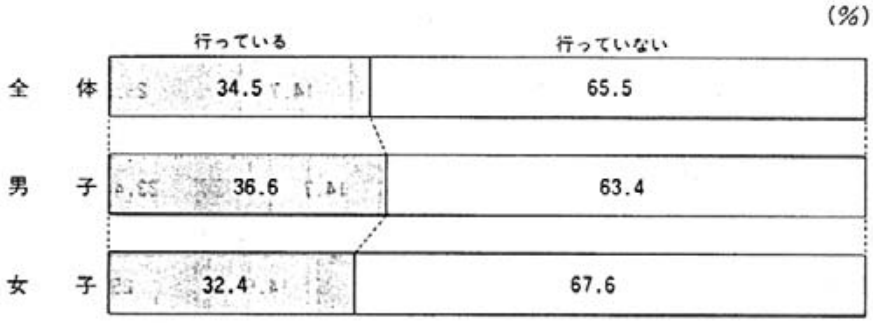


図45　通塾回数

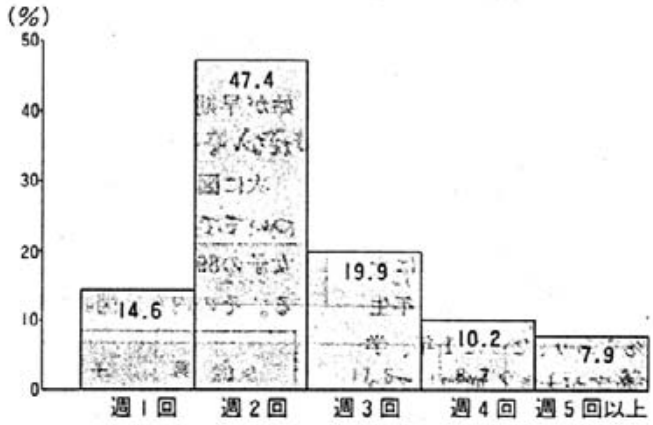


図46　通塾開始時期

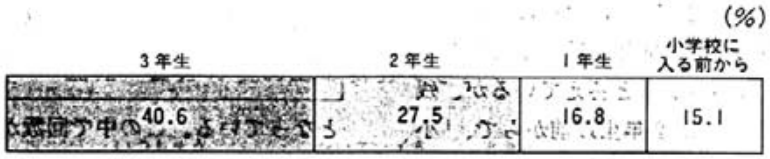


図47　おけいこごと

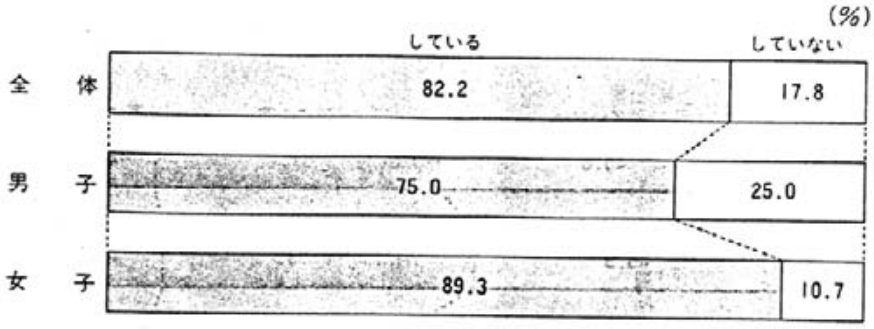
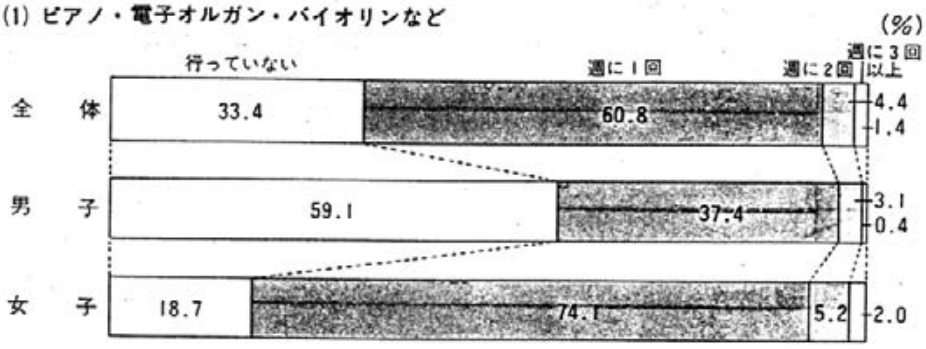


図48　おけいこごとの種類

(1) ピアノ・電子オルガン・バイオリンなど



(2) 習字

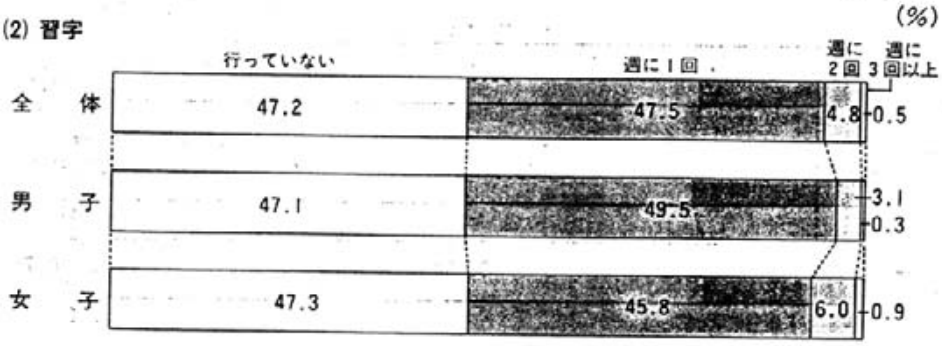
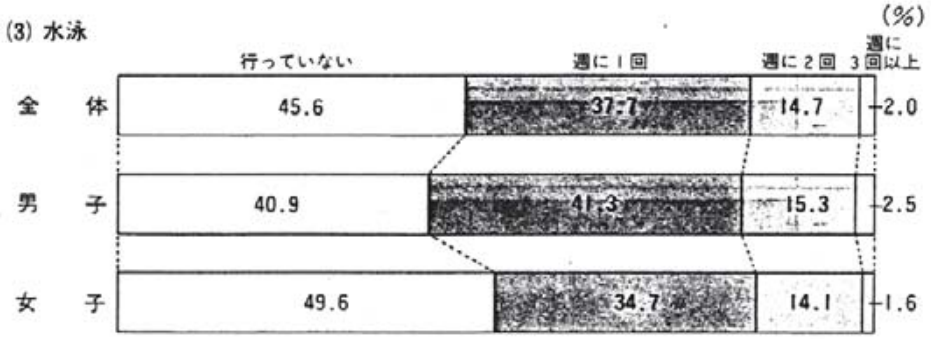
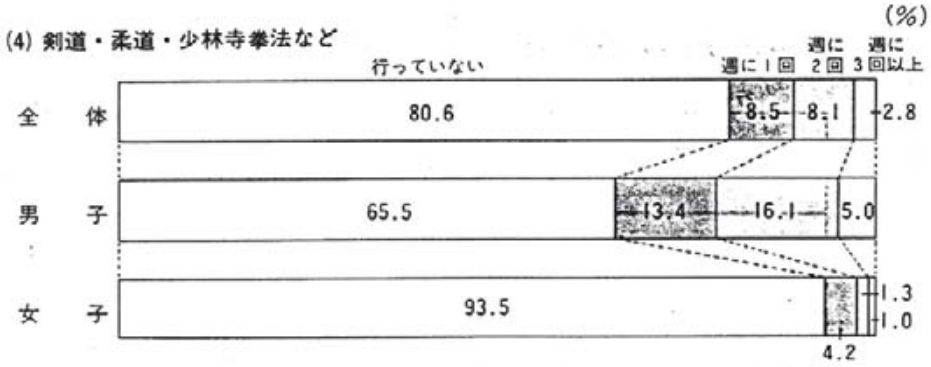


図48　おけいこごとの種類

(3) 水泳



(4) 剣道・柔道・少林寺拳法など



(5) 体操

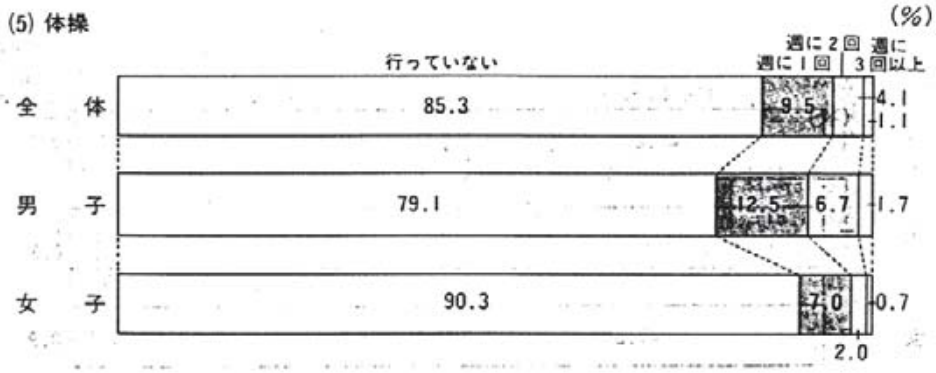
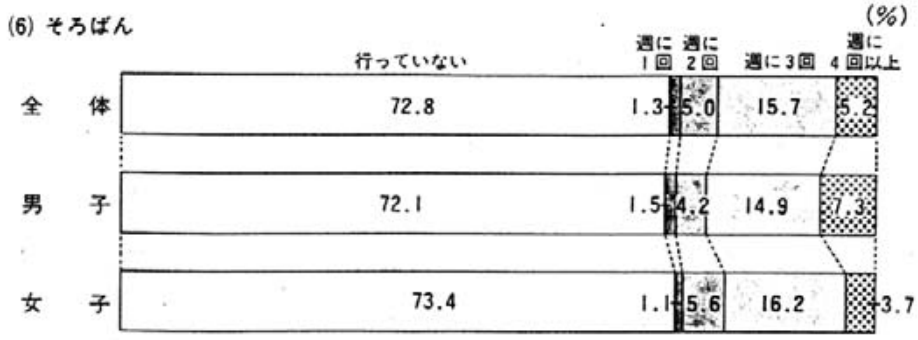
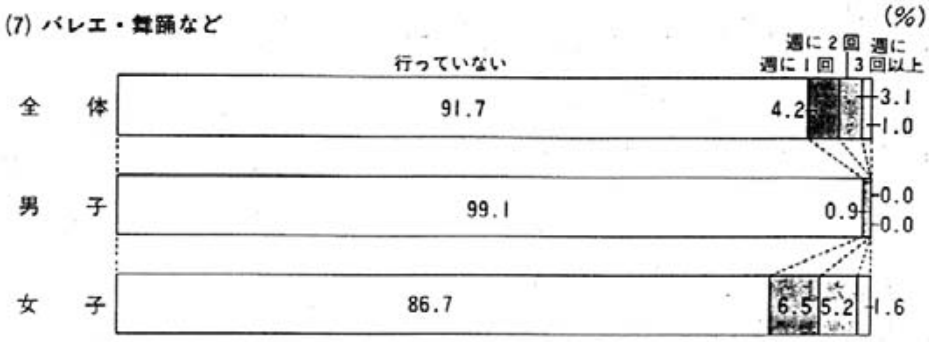


図48　おけいこごとの種類

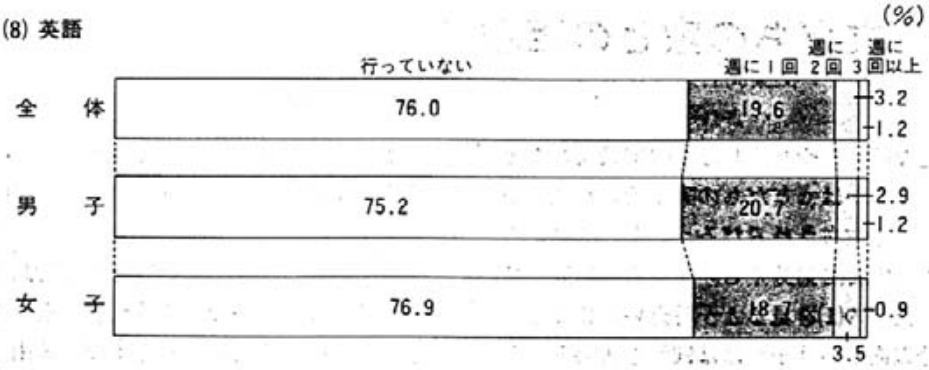
(6) そろばん



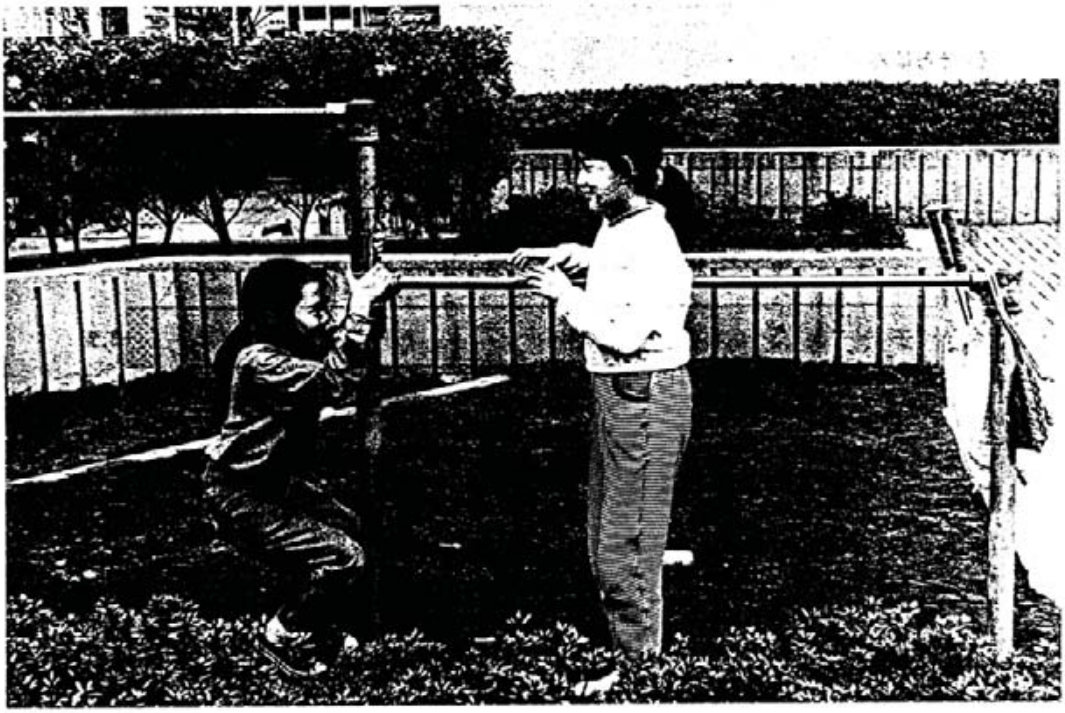
(7) バレエ・舞踊など



(8) 英語



4. 放課後の交友関係

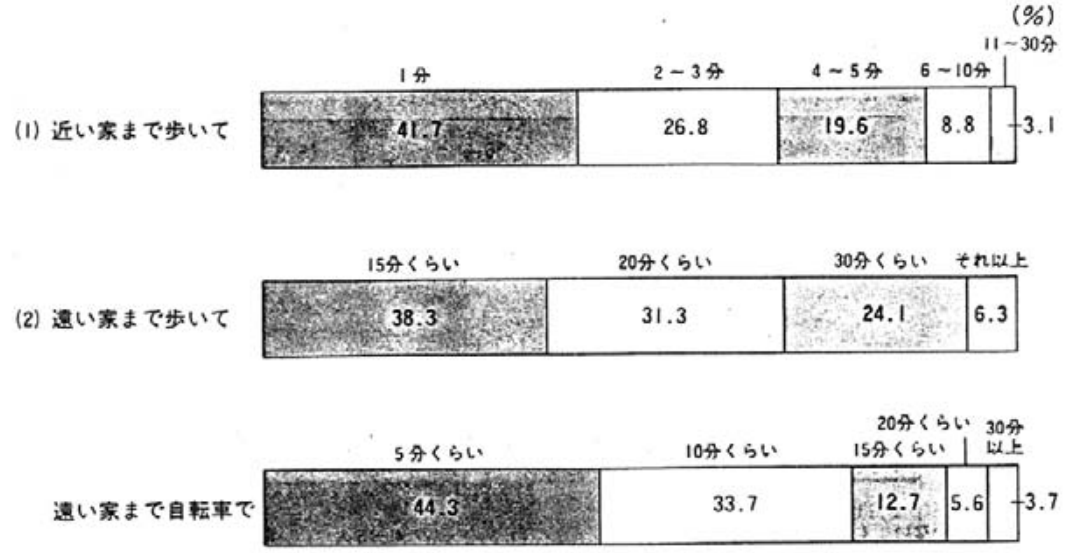


以上見てきたように、帰宅後も塾やおけいこごと、家庭学習で多忙な3年生だが、友だちとの接触や遊びはどうなっているのだろう。最近では子どもの友だち関係はもっぱら学校という場に限られるとも言われている。本章では、帰宅後の友だち関係に焦点を当ててみよう。

友だちの家との距離

多忙な時間をやりくりして帰宅後友だちと遊ぶかどうかは、友だちの家が近いか遠いかによっても左右されるだろう。そこで家から友だちの家まで何分くらいかかるかを聞いてみた。図49の(1)を見ると一番近い家まで歩いて5分以内という子がほぼ90%を占める。そのうち42%までは1分以内である。少子化の波の中で近所に友だちがいなくなったと指摘されるものの、この数字を見ると昔のように友だちのえり好みさえしなければ、けっこう至近距離に放課後行き来できる友だちのいることがわかる。また(2)を見ると一番遠い家までででも歩いて20分くらいまでが70%、自転車で5分くらいが44%にも達する。昔の子どもだったらこのくらいの距離は十分行動半径に入っていたのではなかろうか。最近では子どもたちに放課後友だちと遊ばない理由を聞くと、「友だちがいない」「いても忙しくて遊ぶヒマがない」などと答えるが、その理由の第一は同じクラスでなければ、同学年や同性でなければ、気が合わなければ、など遊ぶ対象をえり好みするからではなかろうか。

図49　友だちの家までの距離



友だち遊びの頻度

では帰宅後子どもたちは、週に何日くらい友だちと遊んでいるのだろう。図50によると、「あまり・ぜんぜん遊ばない」子どもはわずか13%。「だいたい毎日遊ぶ」子どもも29%おり、およそ50%の子どもたちが週に1～4日は遊んでいる。3年生の子どもたちの放課後の交友は思ったより活発であるという印象も受ける。

では放課後に遊ぶ友だちは、一体何人くらいいるのだろう。図51を見ると、放課後に遊ぶ友だちが1人しかいない子こそ10%と少ないが、2人か3人が全体のほぼ半数を占めている。図50での「思ったよりよく遊んでいる」子どもたちという印象は、ここで多少修正しなければならないという気もする。昔の子どもだったら、この数字は一様に10人を超えていたのではなかろうか。

さて図52から図54までは、放課後遊ぶ友だちのタイプである。図52が示すようにちがう学校の子とはほとんど遊ばないし、学年のちがう子と遊ぶことも極めて少ない（図53）。図54が示すように、同性としか遊ばない子は男子の86%、女子の76%にも達する。現代っ子が異質なものに耐性が低いとの指摘がなされるのも、こうした仲間集団の中での成長を考えれば当然かもしれない。

さて図55は、家に帰ってからの仲よしと学校での仲よしが同じかどうかについて見たものである。「ぜんぜんちがう」つまり学校での交友関係と全くちがう交友関係を持つ子はわずか12%。全体としてはほとんど同じ（48%）か、少しちがう（40%）だけである。この等質性の中での成長という概念は何とか変えられないものだろうか。

図50　家に帰ってから友だちと遊ぶ頻度

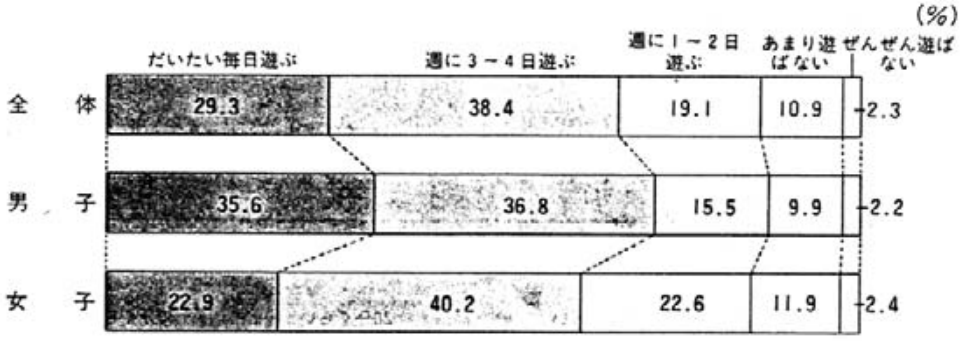


図51　家に帰ってから遊ぶ仲よしの人数

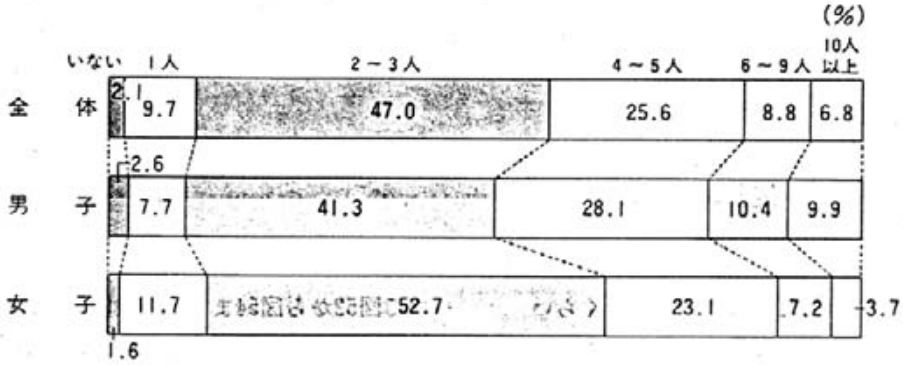


図52　家に帰ってから遊ぶ仲よし(学校)

図53　家に帰ってから遊ぶ仲よし(学年)

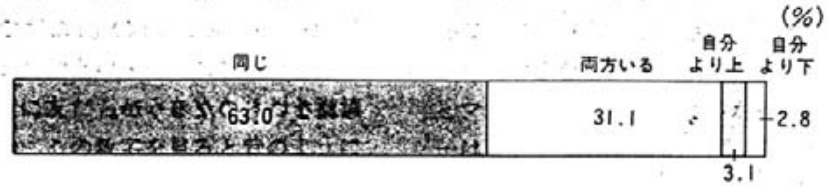


図54　家に帰ってから遊ぶ仲よし(男女)

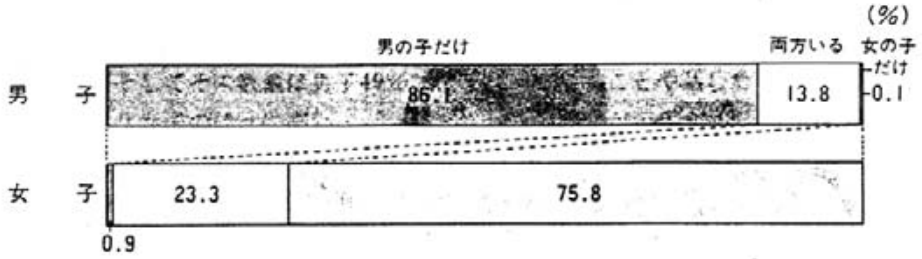
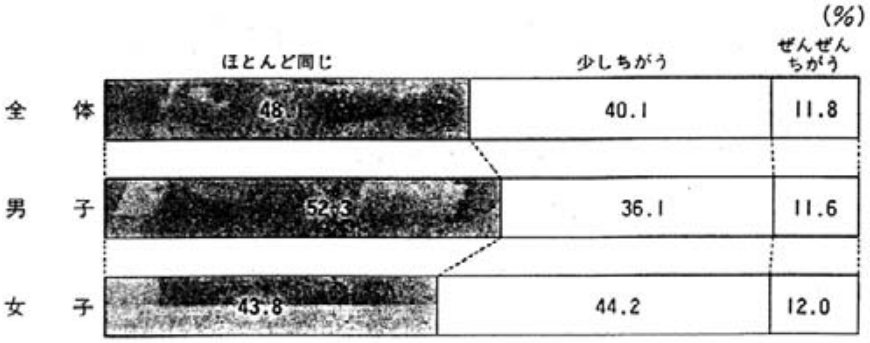


図55　家に帰ってから遊ぶ仲よしと学校の仲よし



5. 家庭生活をめぐって

先にふれたように3年生が本来ギャング・エイジの入口であるとすれば、それはまたこの学年あたりから「親離れ」が始まり、社会的自立性が進む年齢であるとも言えるだろう。本章ではそうした視点から、3年生の家庭での生活ぶりと親子関係に接近してみることにしよう。

親子関係

まず3年生の親子関係はどうなっているのか。図56、図57は、両親に対する感情を見たものである。父親を「とても好き」な子は男子で62%、女子で76%、母親については62%と83%で、いずれも女子のほうが両親に強い愛着を示している。「わりと好き」の反応はおそらく成長に伴って生じた両親への批判的精神の現れ——すなわち幼少期にはたいていは「大好き」だった両親に対して、感情的なかげりが生じた結果とみることもできそうだ。とすると、女子よりも男子のほうに親離れが早く始まっているのかもしれない。そしてまた両親を「嫌い」とする強い反応は、そうした親離れの問題よりも親子関係上の問題を示す数字であろうが、その数字はわずか1～2%でしかない。全体として3年生の親子関係は未だ十分に密接なものと言えるだろう。

次に図58は、帰宅後「その日の出来事を母親に話すか」である。その日の出来事を逐一母親に話すのは、ある意味で母子分離が十分ではないこと、個としての自立性が十分には育っていないことを示すものかもしれない。

全体として「いつも」話す子は27%、これに「たいていそう」の29%を合わせると、6割近くがまだ母親とピッタリな関係を保っていると言えそうだ。そしてその数値は男子49%、女子62%とやはり女子のほうに高い。

これと関連して図59は親への隠し事の有無をたずねたものである。おとなになりかけるとき、それまでは全くの一心同体であった親との間に少しずつ心理的な距離が生ずる。何でも話さずにはいられなかった子どもが、都合の悪いことや話したくないことは話さなくなる。図が示すように「ときどきそう」を含めてこうした距離の存在を示す子は、男子55%、女子50%ほどになっている。

図56　父親が好きか

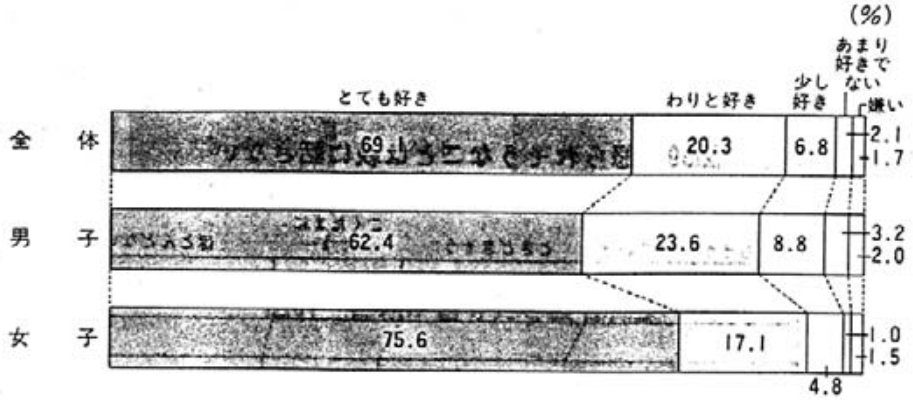


図57　母親が好きか

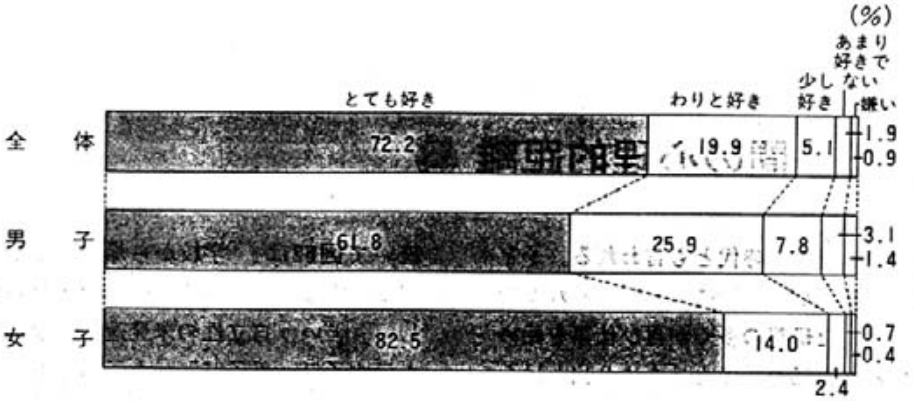


図58　その日の出来事を母親に話すか

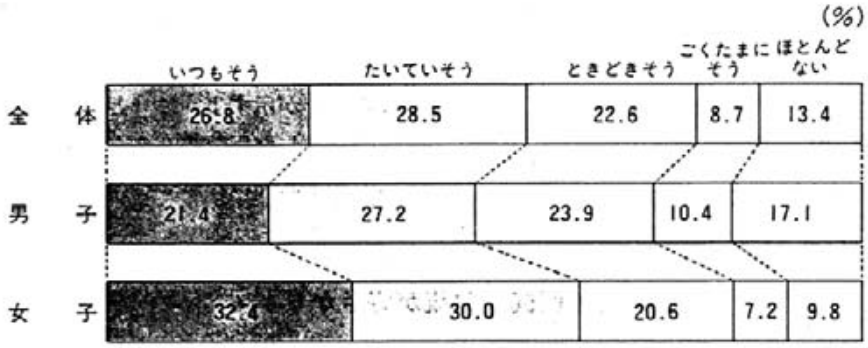
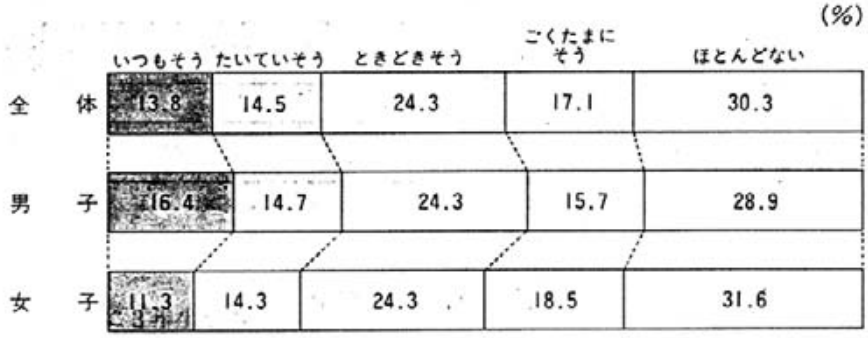


図59　怒られそうなことは親に話さない



母子間の心理的距離

現代は働く母親の時代とも言われる。子ども、とくに末子が小学校に入ると、それまで専業主婦だった母親の多くが再び仕事を始めようとする。図60を見ても「あまり出かけない」でほとんど家にいる母親は、3割を切っている。

では母親が家を空けることに対して、3年生とはどんな反応を示す年齢なのだろう。図61では、71%の子どもが「あまり・ぜんぜん寂しくない」と答えている。男子よりも女子のほうが寂しがる傾向が強く、その数字は男子の82%に対して女子は59%と差が大きい。

続いて図62は、「学校から帰ったとき母親に家にいてほしいか」である。「ぜったいいてほしい」という自立性の未発達につながる反応を示す子は、男子26%、女子44%もいる。3年生（とくに女子）はまだかなり幼児性を残した子どももいる年齢と言えるだろう。

さらに図63は母親が家を空ける頻度と母親不在を寂しいと思うかどうかの関連である。図が示すように両者には多少関連が見いだされ、とくに週5日以上不在にする母親の子どもは、そうでない母親の子どもよりも「ぜんぜん・あまり寂しくない」とする子が多い。

しかしその差は僅少で、この年齢の子どもたちが母親不在に「慣れる」ことはまだそれほど容易でないことを示す数字かもしれない。

しかし図64が示すように、寂しくはあっても必ずしも「ぜったい家にいてほしい」とは思わず、いわば寂しさに耐えようとする力は、不在がちの母親の子どもの中により多く育ってきていることもわかる。図が示すように「ぜったいいてほしい」子は、母親が「あまり出かけない」「週1日くらい出かける」グループの子どもで40%台であるのに対して、それ以上出かけるグループの子どもでは20%から30%台の数値へと低下している。また「週に半分くらいいてくれればよい」とする強い子は「5～6日以上出かける」グループの場合、他に比べ大きく増加している。

図60　母親の外出頻度

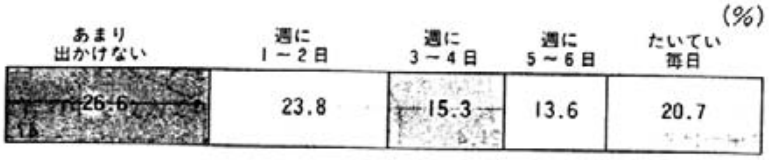


図61　母親が留守だと寂しいか

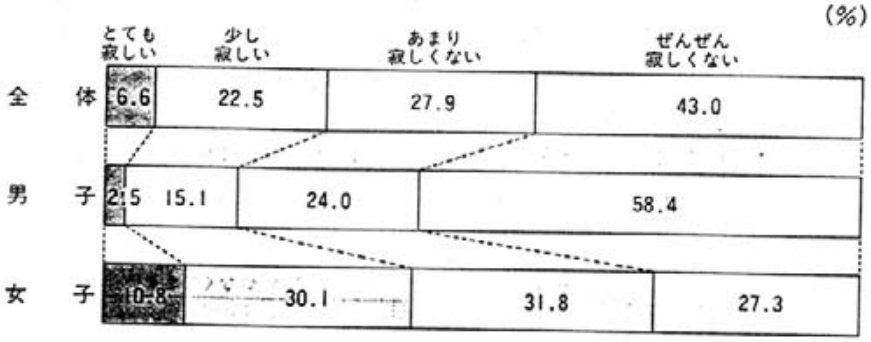


図62　帰宅したとき母親に家にいてほしいか

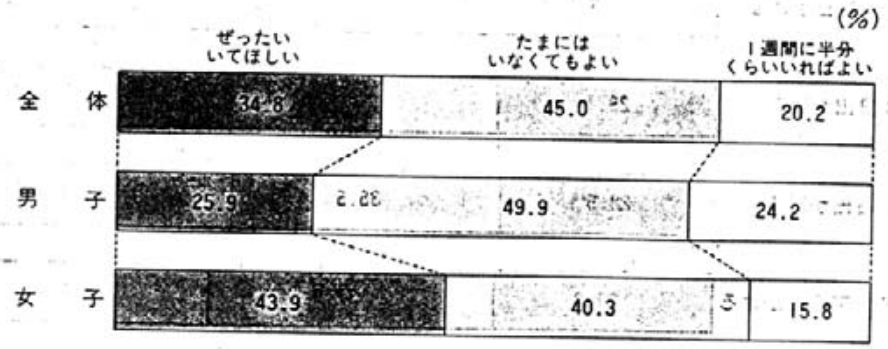


図63　母親が留守だと寂しいか×母親の外出

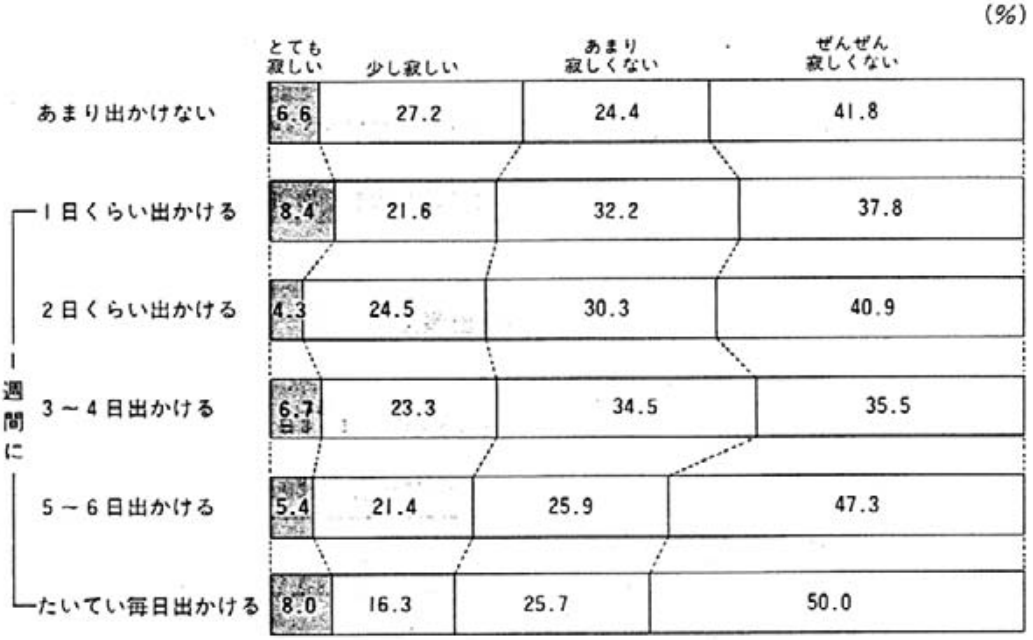
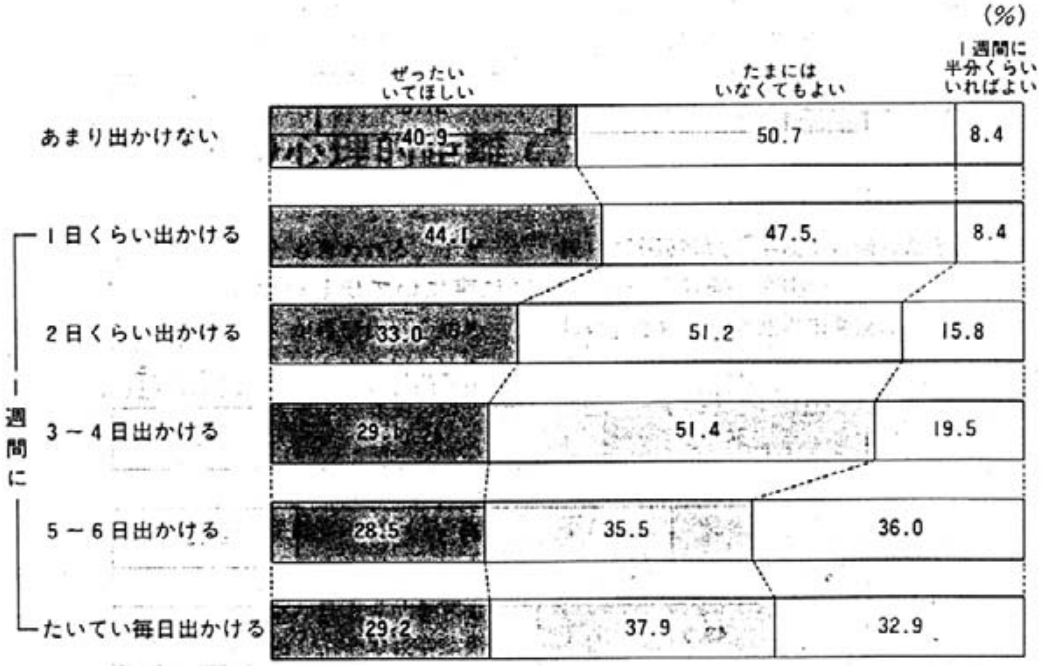


図64　帰宅したとき母親に家にいてほしいか×母親の外出



手伝いをめぐって

最近の子どもたちが自分たちの育った頃と比べるといかに家の手伝いをしなくなったか、おとななら誰しも実感しているにちがいない。しかし「手伝い」の中には実は極めて重大な教育的な意味が含まれていたのではなかろうか。労働の大変さを身をもって味わい、なおかつそれを回避せず積極的に実行してゆく態度を育てる。そうした形で他人や社会に貢献し、自分の社会的地位をも確立する——すなわちセルフエスティームの確立のしかたを手伝いという家庭教育の中で教えていたのかもしれない。しかし最近の家庭の中では、この重要な教育的行為が大きく失われつつある。

この点を示すのが、図66から図75までである。日常的な家事で子どもにも十分分担できそうなものを挙げ、その行為率を性別で見たものである。図65はそれをまとめて表してある。それぞれの項目について「毎日する、ときどきする、あまりしない」かを見たものである。このうち、子どもが手伝いをしている状態はどこまでを含めて考えればよいのだろう。つまり「ときどきする」をどう評価するかであろう。これを「手伝っている」とみなせば、全体の数値はかなり高くなる。しかし考えてみると「ときどき手伝う」はたぶん「親から言われたときに」であろう。手伝いが、生きてゆく上での基本的なあり方を教えるほどの教育的意味をもつとしたら、それは「頼まれたときに」するくらいでは到底果たせないと思われる。とすれば、その手伝いが一つの「作業分担」になってこそ生きた教育の機会となる——つまり「毎日する」に注目して結果を見てゆくことが必要だろう。

まず10種類の家の仕事の中で、もっともよく行われているのは図65が示すように「雨戸やカーテンの開閉」で、次いで「食器の準備」「新聞等を戸口から取ってくる」と並ぶ。しかしその割合と言えば、一番よく手伝われている「雨戸やカーテンの開閉」ですら24％の子しか毎日はしていない。大多数は「ときどきする」程度で、逆に「あまりしない」子は29％もいるのである。上位の3つはいずれも「労働」とか「仕事」の名に値するような大変さを備えていないにもかかわらず、行為率が極めて低いのである。まして4位以下の行為率の低さには嘆かわしいものがある。

また図66以下の性差を表す図を見ると「毎日する」は僅少なので性差が明白でないが、「ときどきする」を見てゆくと、かなりの項目で男子より女子がよくやっている。例えば「雨戸やカーテンの開閉」「食器の準備」「食事の後かたづけ」「洗濯物をたたむ」「洗濯物を取り込む」などで差が大きい。なぜもっと男の子にさせないのか。これからの時代は生活者として、男の子は女の子以上に自立した存在となる必要があるにもかかわらず、母親はなぜこうした重要な教育の機会を見過ごしてしまうのだろう。

図65　手伝い

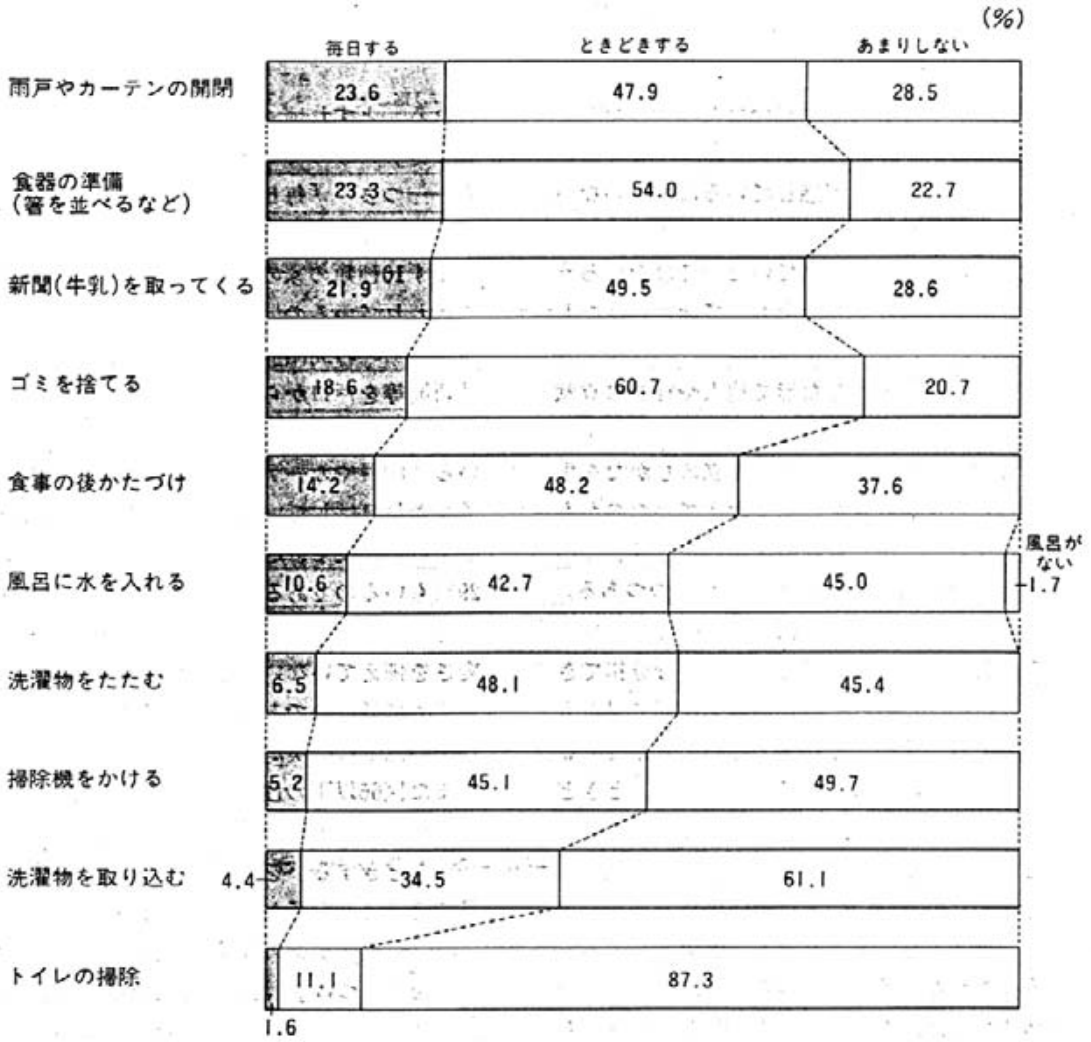

(%)
毎日する
ときどきする
あまりしない
雨戸やカーテンの開閉
23.6
47.9
28.5
食器の準備
(箸を並べるなど)
23.3
54.0
22.7
新聞(牛乳)を取ってくる
21.9
49.5
28.6
ゴミを捨てる
18.6
60.7
20.7
食事の後かたづけ
14.2
48.2
37.6
風呂に水を入れる
10.6
42.7
45.0
風呂がない
1.7
洗濯物をたたむ
6.5
48.1
45.4
掃除機をかける
5.2
45.1
49.7
洗濯物を取り込む
4.4
34.5
61.1
トイレの掃除
11.1
87.3
1.6

図66　手伝い・雨戸やカーテンの開閉

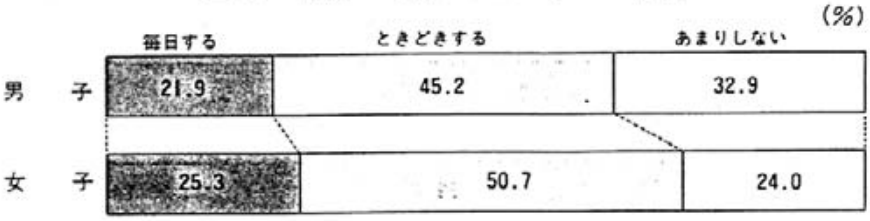


図67　手伝い・食器の準備(箸を並べるなど)

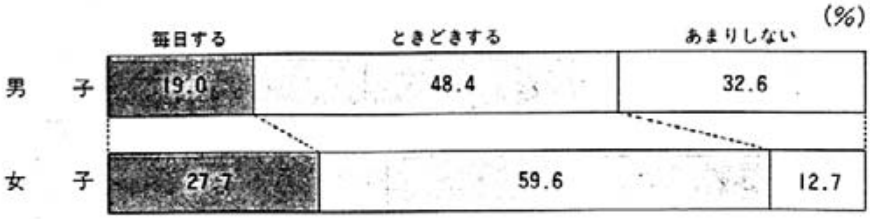


図68　手伝い・新聞(牛乳)を取ってくる

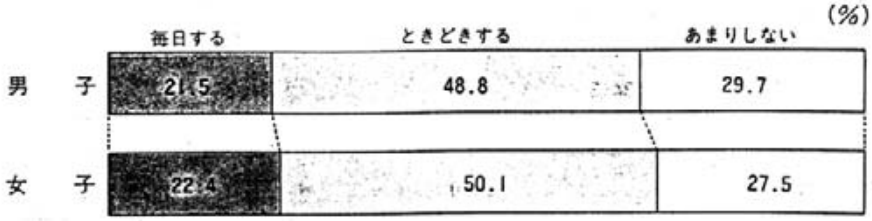


図69　手伝い・ゴミを捨てる

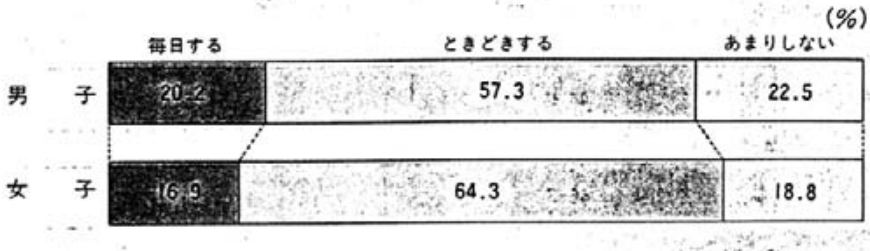


図70　手伝い・食事の後かたづけ

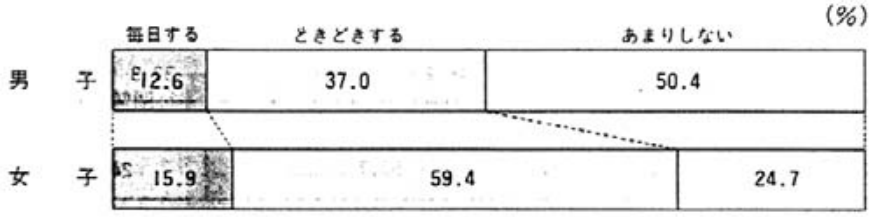


図71　手伝い・風呂に水を入れる

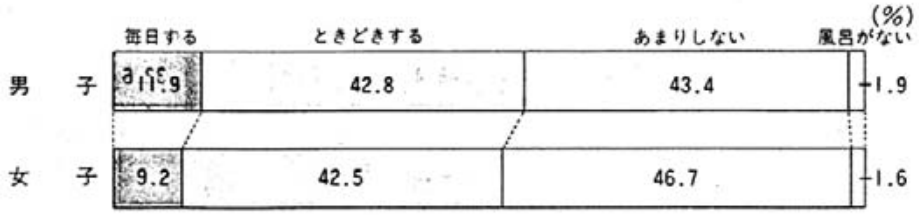


図72　手伝い・洗濯物をたたむ

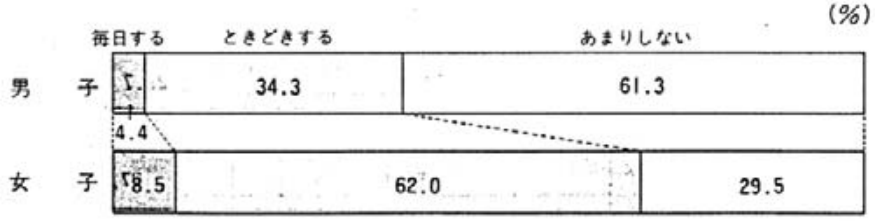


図73　手伝い・掃除機をかける

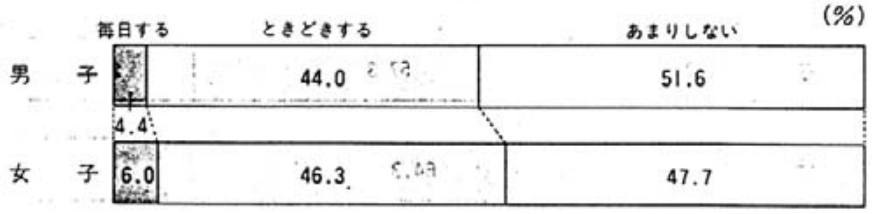


図74　手伝い・洗濯物を取り込む

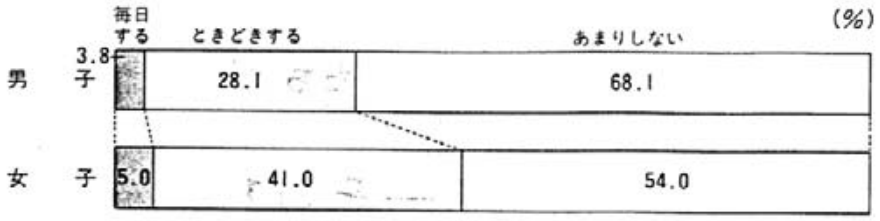
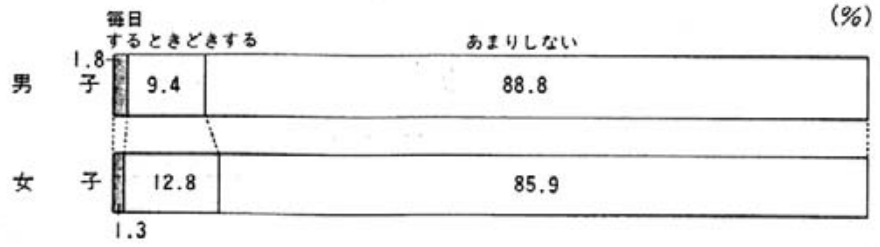



図75　手伝い・トイレの掃除